



Yamaguchi University Hospital Guide 2023-2024

山口大学医学部附属病院ガイド



目次
Contents

- P.02 病院長挨拶
- P.03 トピックス
- P.05 病院概要
- P.07 沿革
- P.09 機構図
- P.10 役職員
- P.11 診療科
- P.33 診療施設
- P.51 企画・管理部門、診療科連携部門、薬剤部、看護部等
- P.67 建物配置図

表紙 詩人まどみちおの詩『空気』の世界観からインスピレーションを得たモザイク壁画作品
アーティスト：渡邊良重（モザイク制作：永井友紀子）

病院長挨拶

A Message from the Director



安心・安全でより良い医療を提供し続けること

山口大学医学部附属病院長
松永 和人

本院は、山口県の中核病院として発展してきた長い歴史と伝統を持ち、これまで県内をはじめ国内外で活躍する多くの人材を輩出し、医学・医療の発展と医療人の育成に尽力して参りました。大学病院は診療、教育、研究の3つの重要な使命があります。これらの使命を達成するために、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を理念とし、①患者さんに寄り添い、安全で良質な医療を提供する ②個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る ③豊かな人間性を持ち、多様な場で活躍できる医療人を育成する ④世界に誇れる先端医療を探求しつづける ⑤持続可能な地域医療の実現に貢献する を基本方針としています。

本院は、現在、ベッド数 756 床、30 の診療科と 25 の診療施設を擁し、あらゆる分野の疾患を専門的かつ総合的に診療できる山口県内唯一の特定機能病院です。国立大学病院で最初に設置認可された「高度救命救急センター」を中核に、山口県の高度救急医療体制を担うとともに、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、アレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院等、山口県の拠点病院に指定されています。2018 年には、AI システム医学・医療研究教育センターを設置し、多くの診療科と人工知能 AI を用いた研究開発が進められ、AI 技術を活用した診療支援が始まっています。

また、新たな挑戦として、さまざまな分野のプロフェッショナルが綿密に連携しながら総合的な治療やケアを提供するセンター化を進め、診療機能の強化に取り組んでいます。現在、生殖医療センターのほか 6 センターが分野連携型の診療を開始しました。大学病院は、将来を見据え、優れた医療人材をバランス良く育成していくことで人々の生活と繋がりを守り、安心して暮らせる社会の実現を目指していく使命があります。山大病院は、今後の社会の変化に柔軟に対応しながら、より良い医療を目指す挑戦を続けてまいります。

本院は、2015 年から国立大学病院としては初となる 2 回目の病院再開発整備事業を進めています。2019 年には新病棟が開院し、診療体制がさらに充実しました。2023 年度からは外来診療棟の整備に着手します。2025 年度までの再開発事業による病院機能の強化は、今後も持続的かつ強靱な体制で高度先進医療を提供する礎となります。日常診療を行いながら再開発整備を進めており、もうしばらくご不便をおかけすることと存じますが、どうぞご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

本院の使命は、山口県の医療における「最後の砦」を務め、地域医療の「安心」と「未来」を育むことです。その実現のためには、「安心・安全でより良い医療を提供し続けること」が最も大切です。患者さんが中心の良質な医療を目指して、すべての職員が病院機能の継続的な改善活動に常日頃から取り組んでいるところですが、山大病院が未来に向けて歩んでいくためには、医療側の視点だけでなく、皆様からの率直なご意見が必要です。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

トピックス

Topics

Topics

1

病院の理念と基本方針を刷新

2023年5月、本院としては初の試みである、全職員の参加によるパブリックコメントを基に、病院の理念と基本方針を刷新しました。新しくなった理念は一つ、基本方針は五つ。これらには、患者さんや未来、地域社会などに対する本院および職員の使命・責任が込められています。



Topics

2

C棟1階にホスピタルアートが登場

C棟（新中央診療棟）の改修工事が終了し、ホスピタルアート2作品を新設しました。1階の麻酔科外来近くにある「クロスラウンジ」の柱に設置したデジタルアートは、山口県出身のアーティスト石井栄一さんの作品「デイリー・コース [365++]」です。「再生・光・エネルギー・成長」をテーマに、「ジェネラティブ・アート（生成の芸術）」と呼ばれるコンピューター特有の表現方法でパターンの異なる365日分のプログラミングをコンピューターが計算し、実行したグラフィックアートが描かれています。毎月4日には山口ゆかりのイメージが登場し、本画像は雪舟庭です。（制作協力：山口情報芸術センター [YCAM]）

また、C棟2階と病棟との連結部分には木下友梨香さんの壁画作品「ナツミカンの木」を設置しています。山口県の県花である夏みかんの花をモチーフとして、ダイナミックにハンドペインティングで描かれた作品です。



石井栄一
作品名：デイリー・コース [365++]



木下友梨香
作品名：ナツミカンの木



Topics

3

“患者ファースト”で B棟を整備中

国立大学附属病院としては全国初となる2回目の再開発整備事業により、B棟のリニューアルが進んでいます。医療環境の向上と患者さんの目線に立った病院づくりの実現を目指し、すべての病室を4床から3床に変更。1床あたり8㎡以上の広さを確保することで、患者さんやご家族にゆったりと過ごしていただけます。さらに、3床室には各病室内にトイレを、1床室にはユニットシャワーを設置。いずれもバリアフリー化し、患者さんの生活動作の回復を助けます。ほかにも、スタッフステーションに隣接して重症エリアを設けるほか、ICTモニターやセンサーによる見守り設備を設置するなど、患者さんの安心・安全を守る「患者ファースト」のリノベーションを行っています。

Topics

4

2台目の 「ダ・ヴィンチ」導入

本院では2012年9月より手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を運用していますが、2023年3月、新たに2台目を導入しました。保険適用の拡大に伴い、現在は従来の泌尿器科領域の手術のみならず、食道、胃、肝臓、肺や縦隔、子宮などの手術もロボット支援下で行われるようになってきています。



Topics

5

診療科連携部門を設置

診療機能の強化に取り組む本院では、さまざまな分野のプロフェッショナルが綿密に連携しながら総合的な治療やケアを行うセンター化を進めています。現在、「生殖医療センター」「血管内治療（IVR）・放射線診断治療センター」「こども医療センター」「低侵襲手術センター」「IBDセンター（炎症性腸疾患センター）」「高齢者がん治療センター」「臨床心理センター」を設置し、診療科の枠を超えた分野連携型の診療を行っています。

病院概要

Overview



理念

一人ひとりの健康と安心の探求と実現

患者さんに寄り添い
安全で良質な医療を
提供する

個性や価値観を
尊重し、安心して
能力を発揮できる
職場環境を創る

持続可能な地域医療の
実現に貢献する

豊かな人間性を持ち、
多様な場で活躍できる
医療人を育成する

世界に誇れる
先端医療を
探求しつづける

病院概要
Overview

患者さんの権利

本院は、高度医療機関として、また、教育・研究機関としての役割を担う中で、多様性を尊重し、患者さんの権利を守ります。

1. あなたは、人格を尊重され、人としての尊厳も保った適切な医療を受けることができます。
2. あなたは、医師等から十分な説明を受け、ご自分の希望や意見を述べることができ、自らの意思で診療内容を決めることができるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
3. あなたは、診療について別の医師等の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
4. あなたは、診療内容に関するあらゆる情報を得ることができます。
5. あなたは、診療費の内容について知ることができます。
6. あなたのプライバシー及び個人情報、最大限保護されます。
7. あなたは、教育実習や研究の対象となることを望まないときは、これを断ることができます。
8. あなたは、医療・福祉などの相談をすることができます。
9. あなたは、病院のサービス改善を要求することができます。

こどもの患者さんの権利と責務

1. あなたは、人として大切にされ、一番自分に合った医療を受けることができます。
2. あなたとご家族は、わかりやすい言葉で説明を受け、自分の病気や検査、病気を治す方法について知ることができます。
3. あなたは、自分が受ける検査や病気を治す方法について十分な説明を受けたいと、自分の考えや気持ちを病院の人やご家族に伝え、自分で決めることができます。
4. あなたを診察しているお医者さんとは別の病院のお医者さんの考えを聞くことができます。
5. あなたは、入院していても、勉強の手助けを受けたり、遊んだりすることができます。
6. あなたとご家族が愛情深く過ごせるよう、病院に助けてもらうことができます。
7. あなたの病気やけがを治している間に病院が知った、あなたの秘密は守られます。
8. あなたのこころやからだの状態を病院に伝えてください。
9. あなたとみんながもっと過ごしやすくするために、病院の約束を守ってください。

病院概要

名称	山口大学医学部附属病院
所在地	〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
病院長	松永 和人
標榜診療科	30 診療科 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、心療内科、小児科、アレルギー科、外科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、脳神経内科、臨床検査科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科
病床数	756 床
各種指定	消防法の規定に基づく救急病院・臨床修練指定病院・特定機能病院・災害拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院・難病診療連携拠点病院・高度救命救急センター 都道府県がん診療連携拠点病院・エイズ治療中核拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院 山口県 DMAT 指定病院・総合周産期母子医療センター指定病院・原子力災害拠点病院 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

本院で承認されている先進医療

2023年7月1日現在

区分	承認日	実施診療科
ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR 法)	令和3年7月1日	眼科
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 (膵臓がん (遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。))	令和3年8月1日	第二外科
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん (初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) ※保険診療として行う外科的治療のみ実施	令和4年7月1日	第二外科
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	令和5年6月1日	産科婦人科
術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブ-パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん (七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	令和5年7月1日	第二外科

沿革

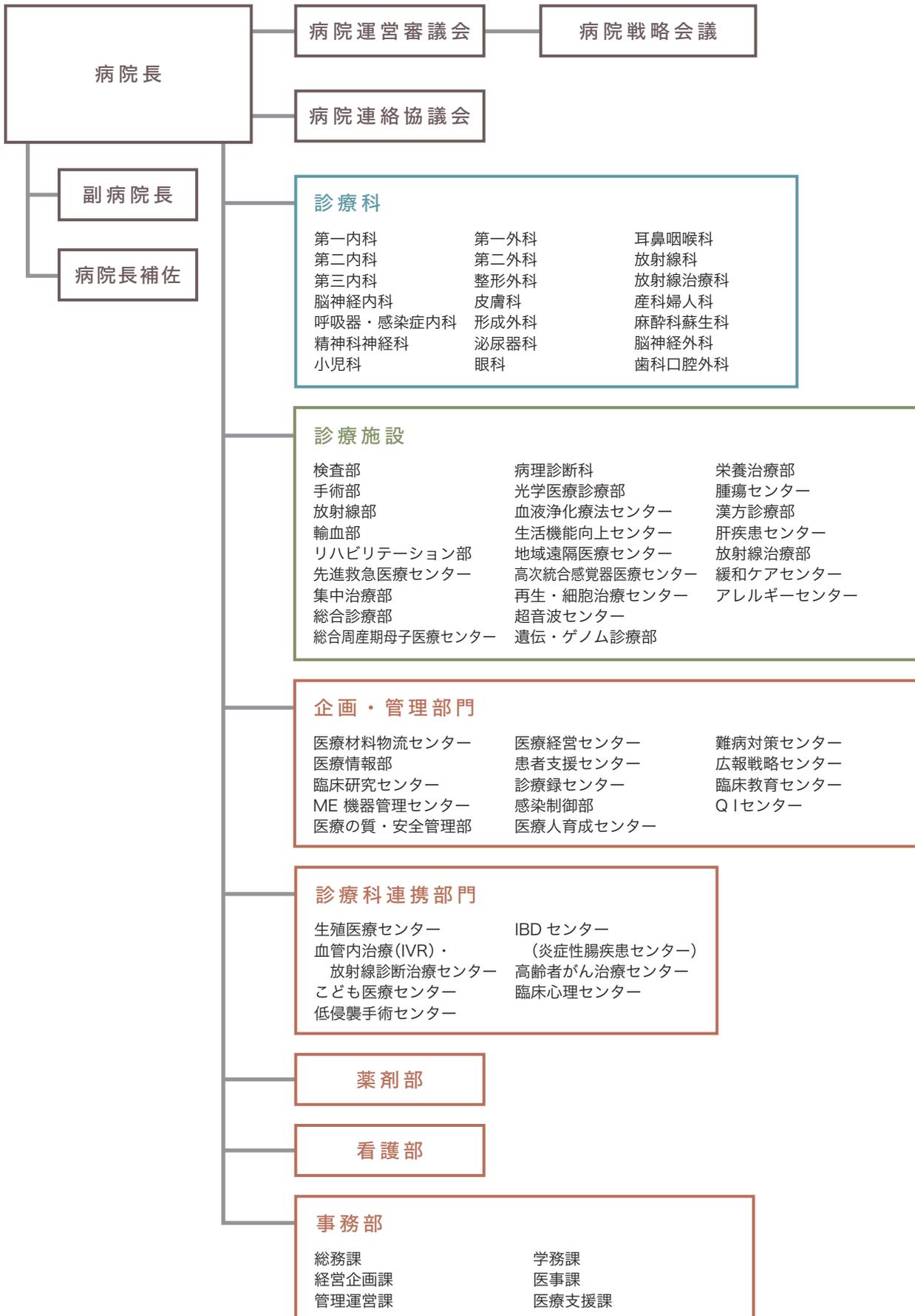
History

- 昭和19年(1944) 4月 山口県立医学専門学校設置
- 昭和22年(1947) 6月 山口県立医科大学設置認可、同時に予科開設
- 昭和23年(1948) 11月 附属病院第1期工事竣工
- 昭和30年(1955) 9月 精神病棟開設
- 昭和32年(1957) 11月 附属病院本館2階を病棟に改修、535床に増床
- 昭和38年(1963) 10月 皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分離
- 昭和42年(1967) 6月 山口大学医学部附属病院創設(国立移管)
厚生省収医第248号をもって病院の開設承認(14診療科・病床数750床)診療科：第一内科、第二内科、
精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、
産科婦人科、歯科 中央診療施設：検査部、手術部
- 昭和43年(1968) 4月 第三内科新設(15診療科)
- 昭和44年(1969) 4月 麻酔科新設(16診療科)
- 昭和45年(1970) 1月 病床数759床に変更
4月 輸血部新設
- 昭和47年(1972) 5月 脳神経外科新設(17診療科)
- 昭和48年(1973) 4月 材料部新設
- 昭和49年(1974) 7月 伝染病棟を廃止し、共通病棟と改称
- 昭和50年(1975) 10月 放射線部新設
「歯科」を「歯科口腔外科」と改称
- 昭和51年(1976) 5月 文部省令第18号により附属病院に看護部設置
10月 理学療法部新設
- 昭和52年(1977) 10月 分娩部新設
- 昭和55年(1980) 4月 事務部を3課制(総務課、管理課、医事課)に改組
集中治療部新設
- 昭和57年(1982) 4月 救急部新設
- 昭和58年(1983) 4月 医学部及び附属病院事務部を統合し、医学部事務部(総務課、管理課、学務課、医事課)に改組
- 昭和63年(1988) 4月 神経内科新設(18診療科)
- 平成元年(1989) 5月 「麻酔科」を「麻酔科蘇生科」と改称
- 平成2年(1990) 3月 MR(磁気共鳴)棟竣工
6月 総合診療部新設
10月 総合治療センター設置
母子医療センター設置
- 平成5年(1993) 4月 分娩部(母子医療センター)を廃止し、周産母子センター設置
- 平成6年(1994) 1月 特定機能病院の承認
- 平成8年(1996) 5月 医療情報部新設
- 平成9年(1997) 3月 新中央診療棟竣工
4月 病理部新設
循環器科、心療内科、アレルギー科、心臓血管外科、リウマチ科設置
院内学習室(院内学級)設置
- 平成11年(1999) 4月 救急部を廃止し、先進救急医療センター設置(文部省)
10月 結核病床15床を一般病床に種別変更
救命救急センターの設置承認(山口県)
- 平成12年(2000) 3月 高度救命救急センターの設置承認(山口県)
救急外来の新設
- 平成13年(2001) 4月 治験管理センター設置
11月 医療安全推進室設置
- 平成15年(2003) 4月 光学医療診療部設置
- 平成16年(2004) 4月 国立大学法人へ移行
「治験管理センター」を「臨床試験支援センター」に改称
7月 「栄養管理室」を「栄養治療部」へ改組
- 平成18年(2006) 4月 感染制御室設置

	4月 外来腫瘍治療部設置
	9月 病床数 737 床に変更
	10月 腫瘍センター設置
平成19年(2007)	1月 山口県がん診療連携拠点病院に指定
	4月 病床数 736 床に変更
	6月 消化器科、呼吸器科、呼吸器外科、小児外科設置
	9月 高度救命救急センターの改修
平成20年(2008)	5月 臨床検査科設置
	12月 病院機能評価(Ver5.0)認定
平成21年(2009)	2月 山口県肝疾患診療連携拠点病院に指定
	6月 クリニカルスキルアップセンター設置
	10月 肝疾患センター設置
平成22年(2010)	4月 放射線治療部設置
平成23年(2011)	1月 ドクターヘリ運航開始
	4月 総合周産期母子医療センターに指定
	10月 医療人育成センター設置
平成24年(2012)	3月 地域医療教育研修センター竣工
平成25年(2013)	2月 放射線治療科設置
平成26年(2014)	4月 「臨床試験支援センター」を「臨床研究センター」と改称 二次被ばく医療機関に指定 病院機能評価(3rd G:Ver.1.0)一般病院2認定 病理診断科設置
	6月 救急科設置
平成27年(2015)	2月 リハビリテーション科設置
	4月 呼吸器・感染症内科設置 入退院センター設置 「感染制御室」を「感染制御部」へ改組 「医療安全推進室」を「医療安全推進部」へ改組 外来診療棟横立体駐車場竣工
	9月 難病対策センター設置
平成28年(2016)	3月 緩和ケアセンター設置
	4月 「病理部」を「病理診断科」と改称 地域医療システム学研究センター設置
	10月 附属病院保育所新営
平成29年(2017)	3月 地域医療システム学研究センター廃止
	9月 広報戦略センター設置
平成30年(2018)	1月 臨床教育センター設置
	4月 医学系研究科・医学部附属病院 AI システム医学・医療研究教育センター設置 「血液浄化療法室」を「血液浄化療法センター」と改称
	7月 「医療安全推進部」を「医療の質・安全管理部」と改称
	12月 「神経内科」を「脳神経内科」と改称
平成31年(2019)	3月 A棟(新病棟)竣工
	4月 形成外科設置 診療連携室、患者相談室、入退院センターを統合し、患者支援センター設置 Q Iセンター設置 「遺伝診療部」を「遺伝・ゲノム診療部」と改称
令和元年(2019)	6月 A棟(新病棟)開院、病床数 756 床に変更
令和 2年(2020)	3月 災害拠点病院に指定 新生児ドクターカー「すくすく号」運行開始 女性診療外来廃止 病院機能評価(3rd G:ver.2.0)一般病院3認定
	4月 都道府県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
令和 4年(2022)	3月 原子力災害拠点病院に指定
	4月 アレルギーセンター設置

機構図

Organizational Chart



役員

Executives and Department Heads

病院長 松永 和人

副病院長 木村 和博 坂井 孝司 鶴田 良介 中川 伸 長谷川 俊史 原田 美佐

病院長補佐 下村 裕 白石 晃司 石田 博

診療科

第一内科長	高見 太郎
第二内科長	高見 太郎 (事務取扱)
第三内科長	太田 康晴
脳神経内科長	中森 雅之
呼吸器・感染症内科長	松永 和人
精神科神経科長	中川 伸
小児科長	長谷川 俊史
第一外科長	濱野 公一
第二外科長	永野 浩昭
整形外科長	坂井 孝司
皮膚科長	下村 裕
形成外科長	高須 啓之
泌尿器科長	白石 晃司
眼科長	木村 和博
耳鼻咽喉科長	山下 裕司
放射線科長	伊東 克能
放射線治療科長	田中 秀和
産科婦人科長	杉野 法広
麻酔科蘇生科長	松本 美志也
脳神経外科長	石原 秀行
歯科口腔外科長	三島 克章

診療施設

検査部長	山崎 隆弘
手術部長	永野 浩昭
放射線部長	伊東 克能
輸血部長	山崎 隆弘
リハビリテーション部長	坂井 孝司
先進救急医療センター長	鶴田 良介
集中治療部長	松本 美志也
総合診療部長	黒川 典枝
総合周産期母子医療センター長	長谷川 俊史
病理診断科長	星井 嘉信
光学医療診療部長	高見 太郎
血液浄化療法センター長	白石 晃司
生活機能向上センター長	中川 伸
地域遠隔医療センター長	石田 博
高次統合感覚器医療センター長	木村 和博
再生・細胞治療センター長	山崎 隆弘
超音波センター長	山崎 隆弘
遺伝・ゲノム診療部長	伊藤 浩史
栄養治療部長	長谷川 俊史
腫瘍センター長	永野 浩昭

診療施設

漢方診療部長	瀬川 誠
肝疾患センター長	高見 太郎
放射線治療部長	田中 秀和
緩和ケアセンター長	松本 美志也
アレルギーセンター長	長谷川 俊史

企画・管理部門

医療材料物流センター長	白石 晃司
医療情報部長	石田 博
臨床研究センター長	下村 裕
ME機器管理センター長	永野 浩昭
医療の質・安全管理部長	高崎 彰久
医療経営センター長	木村 和博
患者支援センター長	長谷川 俊史
診療録センター長	坂井 孝司
感染制御部長	松永 和人
医療人育成センター長	木村 和博
難病対策センター長	中森 雅之
広報戦略センター長	長谷川 俊史
臨床教育センター長	松永 和人
QIセンター長	坂井 孝司

診療科連携部門

生殖医療センター長	杉野 法広
血管内治療 (IVR) ・ 放射線診断治療センター長	伊東 克能
こども医療センター長	長谷川 俊史
低侵襲手術センター長	白石 晃司
IBDセンター長 (炎症性腸疾患センター)	高見 太郎
高齢者がん治療センター長	永野 浩昭
臨床心理センター長	中川 伸

薬剤部

薬剤部長 北原 隆志

看護部

看護部長 原田 美佐

事務部

事務部長 佐藤 元則

CLINICAL DIVISION

診療科

第一内科	12	形成外科	23
第二内科	13	泌尿器科	24
第三内科	14	眼科	25
脳神経内科	15	耳鼻咽喉科	26
呼吸器・感染症内科	16	放射線科	27
精神科神経科	17	放射線治療科	28
小児科	18	産科婦人科	29
第一外科	19	麻酔科蘇生科	30
第二外科	20	脳神経外科	31
整形外科	21	歯科口腔外科	32
皮膚科	22		

第一内科

消化管内科
肝臓内科
胆道膵臓内科

Internal Medicine I [Division of Gastroenterology, Division of Hepatology, Division of Pancreaticobiliary Tract]

消化器疾患を患っておられる方の視点に立った高度先進医療を提供しています



高見 太郎 科長
Director. Taro Takami

外来	0836-22-2501
ホームページ	https://www.ichinai-yamaguchi.jp/
主な対象疾患	食道癌、逆流性食道炎、食道・胃静脈瘤、胃良性腫瘍、胃癌、胃・十二指腸潰瘍、大腸癌、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など） 急性肝炎（急性肝不全）、慢性肝炎、肝硬変症、門脈圧亢進症、肝癌、自己免疫性肝炎、 原発性胆汁性胆管炎、非アルコール性脂肪肝炎 胆道癌、胆嚢癌、十二指腸乳頭部癌、膵癌、胆石、膵炎

診療内容

消化管内科

消化管（食道、胃、小腸、大腸）の疾患について診療を行っています。カプセル内視鏡やバルーン内視鏡を含む内視鏡検査を実施しており、食道から大腸までの全消化管の検査に対応しています。内視鏡検査は診断に留まらず、早期癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術や内視鏡的粘膜切除術による切除を行っており、良好な治療成績を得ています。また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患の診療実績があり、2023年4月より炎症性疾患（IBD）センターの一員として、外科、小児科、放射線科等と連携して診療を行っています。

主な検査・治療

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的胃瘻造設術、バルーン小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査、食道静脈瘤内視鏡的治療

肝臓内科

山口県肝疾患連携拠点病院として、ウイルス性肝炎、難治性肝疾患、メタボリックシンドローム関連疾患、肝硬変症、肝癌などの診療を行っています。ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス薬や肝硬変症に対する補助療法などの薬物治療に加え、肝硬変に伴う門脈圧亢進症（食道胃静脈瘤や脾腫）に対して内視鏡的硬化療法やカテーテルを用いた治療（B-RTO等）を積極的にを行っています。さらに、進行した肝硬変症に対する新規治療法の開発にも注力しており、自己骨髄間葉系幹細胞を用いた再生療法「自己完結型肝硬変再生療法」について医師主導治験を実施しています。また、肝癌に対する治療として、ラジオ波焼灼療法、経カテーテル治療、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、動注化学療法など幅広い選択肢に対応しています。外来診療では「減酒外来」や「メタボ外来」を行っており、生活習慣病に関するご相談も可能です。

主な検査・治療

腹部超音波検査、造影超音波検査、直接作用型抗ウイルス薬、ラジオ波治療、経カテーテル治療、肝動注化学療法、肝生検、肝腫瘍生検、バルーン閉塞下逆行性静脈的塞栓術

胆道膵臓内科

胆石、胆道炎、胆道癌、膵炎、膵癌など胆道および膵臓の良性・悪性疾患の診療を行っています。特に内視鏡や超音波内視鏡を用いた診断・治療は高く評価されており、国内外のトップレベルの施設で行われている治療・検査はほとんどを実施しています。なかでも、超音波内視鏡やバルーン内視鏡、経口胆道鏡による診断・治療に力を入れています。早期発見が困難である胆道・膵臓領域の悪性疾患について精度の高い診断を目指しています。また、癌の進行に伴う症状の緩和治療にも取り組んでいます。

主な検査・治療

ERCP（胆道膵臓内視鏡検査ならびに治療）、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡的十二指腸乳頭切開術、超音波内視鏡検査（胆道・膵臓）、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、内視鏡的乳頭切開術、内視鏡的膵管ステント留置術、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、膵癌・胆道癌抗癌剤治療



第二内科

循環器内科
腎臓・高血圧内科
膠原病・感染症内科

Internal Medicine II [Division of Cardiology, Division of Nephrology and Hypertension, Division of Clinical Immunology]

高度な全人的医療を提供するため、チーム医療を実践しています



高見太郎 科長（事務取扱）
Director. Taro Takami

外来 0836-22-2501

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ninai/>

主な対象疾患

心筋梗塞・狭心症などの冠動脈硬化症、心筋症・心筋炎、心臓弁膜症、(種々の原因による)心不全、不整脈、高血圧・高コレステロール血症、検尿異常(蛋白尿、血尿)、急性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、間質性腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全、慢性腎不全、本態性高血圧、二次性高血圧、悪性高血圧、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス(SLE)、強皮症、皮膚/多発性筋炎、血管炎症候群をはじめとするすべての自己免疫疾患、各種感染性疾患

診療内容

循環器内科

当科ではすべての心血管疾患の診断と治療を行っています。すべての心疾患の終末像である心不全に対して原因究明をしっかり行い適切な治療を行うよう心がけています。虚血性心疾患では、虚血評価をもとに冠動脈インターベンション(PCI)を施行しており、その際、積極的に血管内超音波検査(IVUS)や光干渉断層法(OCT)を用いて、最適な冠動脈形成術、ステントの植え込み術を行っています。特にロータブレードを用いた高度石灰化病変の治療や分岐部病変の治療などを得意としております。

急性心筋梗塞患者さんの受け入れは、24時間対応のホットラインで対応し、緊急冠動脈造影、冠動脈形成術、ステント留置術を行っています。冠動脈再開通までの時間(Door to Balloon time)をできるだけ短縮することに努めています。重症心不全患者も、24時間体制で受け入れ、人工呼吸、PCPS、IMPELLA、透析などの補助循環装置を駆使した集学的治療を行い、良好な治療成績を上げています。さらに、重症大動脈弁狭窄患者に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)や経皮的動脈弁形成術(BAV)も行っています。不整脈治療においては、カテーテルアブレーションを用いて、心房細動を含め上室性ならびに心室性不整脈の根治療法を行っています。特に最新のマッピングシステムやバルーンテクノロジーを用いることで難治性不整脈の治療成績を向上させています。致死的不整脈に対し、植え込み型除細動器(ICD)による治療や重症心不全患者に対する両心室ペースメーキング療法(CRT)を行っています。心原性脳梗塞予防のため、経皮的左心耳(LAA)閉鎖術/卵円孔(PFO)開存閉鎖術も開始しております。また、心臓リハビリテーションにも力を入れています。

循環器の検査として、心エコー検査、経食道心エコー検査、下肢静脈、頸動脈エコーなどの超音波診断を得意としています。心臓手術においては経食道心エコー検査による心機能モニターを行い、手術成績の向上に貢献しています。そのほか、RI検査や冠動脈MDCT検査を行っていますが、胸痛患者さんの診断のために、ハートフロー社のFFRCT検査を導入し、冠動脈MDCT外来を毎日行っています。



主な検査・治療

心臓カテーテル検査、カテーテルによる血管内治療(PCI)、心エコー検査、経食道心エコー、頸部血管エコー、末梢血管エコー、CCU入院治療数、電気生理学的検査(EPS)、ペースメーカー植え込み、カテーテルアブレーション術、植え込み型除細動器(ICD)植え込み術、心室同期ペースメーキング療法(CRT)、冠動脈MDCT、心筋シンチ、TAVI、BAV、経皮的LAA/PFO閉鎖術

腎臓・高血圧内科

検尿異常(蛋白尿、血尿、ネフローゼ)、腎機能障害(急性腎不全、慢性腎不全)を持つ患者さんに対する診療を行い、腎疾患の存在が疑われる場合は腎生検による病理学的確定診断を積極的に施行し、病態に応じた適切な治療を行います。

近年重要視されている慢性腎臓病(Chronic kidney disease:CKD)に対し、高血圧、脂質異常、糖尿病など含めた包括的な治療として、腎予後の改善を目指した食事療法、薬物療法を行います。

慢性腎炎のうち国内最多の疾患であるIgA腎症に対しては、耳鼻科と連携し重症度に応じて口蓋扁桃摘出術とステロイドパルス療法を組み合わせた治療を行います。

主な検査・治療

急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎炎(IgA腎症など)、ネフローゼ症候群(膜性腎症・微小変化群など)、糖尿病性腎症、ループス腎炎、急速進行性腎炎(顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症など)

膠原病・感染症内科

膠原病は発熱、皮疹、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感といった症状から始まる事が多い多臓器疾患で、寛解と増悪を繰り返すことも多いため、総合的な観点からの注意深い診断と治療が必要です。当部門では患者さん個人の症状や病変部位に応じて、他診療科と密接に連携を取り、詳細かつ包括的に診療する方針としています。ステロイドや古典的DMARD、免疫抑制薬だけでなく、生物学的製剤・分子標的薬などを用いた最新の治療の提供を心がけております。

感染症部門は、各種感染性疾患を主体に診療しています。また、肺動脈性肺高血圧症(PAH)に関しても、循環器内科と協力して、積極的に診断・治療を行っています。

主な検査・治療

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーングレン症候群、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、iGg4関連疾患

第三内科

血液内科
糖尿病・内分泌内科

Internal Medicine III [Division of Hematology, Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology]

深い知識と確かな技術に裏付けられた心のこもる医療を実践します



太田 康晴 科長
Director. Yasuharu Ohta

外来 0836-22-2501

ホームページ <http://sannaika.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

主な対象疾患 血液疾患（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、血小板減少症、血友病など）
糖尿病、内分泌疾患（パセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍、下垂体機能低下症など）、代謝疾患（高脂血症、痛風など）

診療内容

血液内科

白血病、リンパ腫、各種貧血、血小板減少症など血液疾患全般の診療を行っています。なかでも難治性血液疾患に対する造血幹細胞移植に積極的に取り組んでいます。昭和58年に初めて血縁からの骨髄移植を成功させて以来、すでに同種造血幹細胞移植は350症例を数え、難治性血液疾患の治療成績の向上に貢献してきました。最近ではミニ移植やHLAミスマッチ移植など最先端の医療を提供し移植症例数はさらに増加しております。山口県唯一の非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科であり、2019年度からは新病棟へ移転しクリーンルームは7床から16床に拡充され、より多くの方に安全な治療が可能となりました。

またエイズ治療中核拠点病院としてHIV感染症の診療も行っています。

主な検査・治療

急性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、造血幹細胞移植：同種骨髄移植、血縁者間末梢血幹細胞移植、非血縁者間末梢血幹細胞移植、臍帯血移植、自家末梢血幹細胞移植

糖尿病・内分泌内科

糖尿病と内分泌疾患（下垂体・甲状腺・副腎などのホルモンの異常）を主たる対象疾患としています。

特に糖尿病は、近年増加の一途です。網膜症・腎症・神経障害や動脈硬化性合併症を予防、進展阻止するため最新の知識と技術による集学的な治療を行っています。

地域での糖尿病センターとして、診療連携の要の役割も重要と考えています。

また、新薬の開発に積極的に取り組んでいます。さらに夢の治療法の開発に向けて、糖尿病発症メカニズム解明のための基礎的研究を行い世界的な成果をあげてきました。

主な検査・治療

1型糖尿病、2型糖尿病、その他の糖尿病、甲状腺・副甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺エコー



甲状腺エコー検査



教授回診、クリーンルーム



症例検討会

脳神経内科

Neurology

脳の病気から筋肉の病気まで、すべての神経疾患も最高水準の診療をお約束します



中森 雅之 科長
Director. Masayuki Nakamori

外来 0836-22-2707

ホームページ <http://www.neurol.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

主な対象疾患 神経筋疾患、パーキンソン病などの不随意運動を主訴とする疾患、多発性硬化症、アルツハイマー病その他の認知症、脳卒中、頭痛

診療内容

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経および筋肉の内科的疾患が診療対象ですが、山口大学医学部附属病院脳神経内科では脳卒中、認知症、てんかん、頭痛などの common disease から、いわゆる“難病”といわれる未だ確立した治療法の無い疾患まで、偏りなく幅広く、診療を行っております。他診療施設で診断に至らなかった患者さんや、セカンドオピニオンを求めてこられる患者さんも多数受診されていますが、現在、以下の6つの部門に特に重点を置いた高度先進診療を行っています。

1. 神経筋疾患：重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発ポリニューロパチー、筋ジストロフィー、筋炎などの難治性神経・筋疾患に対し、電気生理学、病理学、細胞培養学などの技術を駆使した診断と新規治療法の開発を行っています。
2. パーキンソン病などの不随意運動を主訴とする疾患：パーキンソン病、振戦、小脳失調症、ジストニアなどの疾患に対し、正確な診断に基づいた、薬物療法やボツリヌス毒素を用いた治療を行っています。また、脳神経外科教室との連携の下での DBS 等の外科的アプローチについても実績があります。
3. 多発性硬化症：正確な診断法の確立と、免疫調整薬を中心とした新規治療法の開発に取り組んでいます。
4. アルツハイマー病その他の認知症：薬物治療のみならず、リハビリテーションや神経心理学的アプローチも行っています。
5. 脳卒中：超急性期および慢性期の内科的治療を主眼に診療を進めています。
6. 頭痛：片頭痛をはじめとする頭痛の予防・治療を、最新の脳科学の成果を生かした形で達成する努力を続けています。

主な検査・治療

末梢神経伝導検査、筋電図検査、腰椎穿刺、筋生検、神経生検、脳深部刺激療法（脳神経外科と連携）、ボツリヌス注射



カンファレンス



外来診療



末梢神経伝導検査

呼吸器・感染症内科

Respiratory Medicine

呼吸器・感染症内科は難治性の呼吸器疾患の病態解析や新しい治療法の開発を目指します



松永 和人 科長
Director Kazuto Matsunaga

外来 0836-22-2707

ホームページ <http://www.kokyuki.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

主な対象疾患

呼吸器疾患全般
ぜんそく、COPD（肺気腫、慢性気管支炎）などの咳や息切れが長引く疾患、肺炎、肺がん、間質性肺炎、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群など

診療内容

呼吸器・感染症内科は、喘息・COPDなど閉塞性肺疾患、肺炎・結核などの呼吸器感染症、間質性肺炎などのびまん性肺疾患、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、肺癌をはじめとする腫瘍性疾患など多岐にわたる呼吸器疾患を診療します。

また、膠原病や心疾患に伴う肺疾患も関連各科と連携しながら診療を行います。

主な検査・治療

- 閉塞性肺疾患：喘息やCOPDは、症状アンケート、呼吸機能検査や呼気NOによる気道の炎症評価など客観的指標をもとに、適切な診断・治療に努め、患者の個別化医療を目指します。特に重症喘息の治療に対しては各種バイオマーカーで喘息のタイプを5種類の抗体製剤を使い分けています。また、活動量計による身体活動性の評価や胸部CTによる気道病変の精査など多様な機器で疾患の病態解明・治療に役立てています。
- 呼吸器感染症：肺は外界と直接つながる臓器であり、空気中に浮遊する病原体による感染症にかかるリスクの高い臓器です。特に、免疫抑制剤使用者においては、ウイルス、真菌（アスペルギルスなど）など日和見感染症にかかり、診断の遅れが重篤な結果を招いてしまいます。当科では喀痰検査や胸部CTによる画像診断以外に、場合によっては気管支鏡検査による病原体の採取を行い、診断・治療の向上に努めています。また新型コロナウイルス感染症の治療に関しては、各科のお力添えを頂きながら診療にあたっております。当科では主に軽症から中等症患者の診療を担当しており、患者ごとに重症化リスクを考慮し、治療を行っております。
- びまん性肺疾患：診断・治療の難しい間質性肺炎の診療に関する山口県の拠点病院としての役割を担います。身体所見、血液検査、胸部CT検査、気管支鏡による検体採取、場合によっては外科的肺生検を行い、可能な限り原因追求に努めています。また、間質性肺炎の専門外来を設置しており、早期発見と適切な治療を行います。通院が困難な方には短期入院プログラムを導入しています。
- 肺癌：現在、肺癌の薬物治療は多岐に渡っており、殺細胞性抗癌剤以外に、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬が使用できるようになりました。遺伝子変異（EGFR、ALKなど）やPD-L1の検索に努め、最適な個別化医療を目指します。また、薬物療法以外に手術、放射線治療、放射線+抗癌剤治療があり、外科、放射線科、放射線治療部と話し合いながら、患者一人一人に最適な治療を提供できるようにしています。



気管支内視鏡検査の実際

最新の診療の導入

気管支内視鏡：肺癌やびまん性肺疾患の診断に欠かせない気管支鏡検査ですが、我々は超音波の併用で縦隔リンパ節生検（EBUS-TBNA）や末梢病変の確実な生検技術（EBUS-GS）を導入し診断率を向上させました。さらにナビゲーションシステムを導入したことで、末梢孤立病変の診断率の向上に努めています。そして、組織を凍結して採取することで従来の鉗子生検の約5倍の検体採取が可能となるクライオバイオプシーも山口県で初めて導入し、これまでの気管支鏡検査では困難であった間質性肺炎の病理診断も可能となりました。また、気管支鏡は診断のみならず治療にも応用できるようになり、重症喘息に対する気管支サーモプラスティがあります。これは気管支平滑筋を高周波電流で加熱し減少させる新しい技術で喘息発作による救急受診を84%も減少させる結果が発表されています。

呼気NO：呼気に含まれるNO（一酸化窒素）を測定することで下気道の炎症を把握することができます。従来は下気道の炎症を評価するのは患者の侵襲を伴う喀痰検査や気管支鏡による検体採取などでした。しかし呼気NOの開発で非侵襲的かつリアルタイムに気道の好酸球性炎症をとらえることが可能となりました。我々は、多施設共同研究により、気道炎症マーカーである呼気のNO検査が、喘息の診断に有用であることを示し、その結果は同検査の薬事承認で本邦のエビデンスとなり、喘息予防・管理ガイドラインにも記載されました。このエビデンスにより喘息やCOPDの診断や治療の精度は大きく向上しています。

睡眠時無呼吸検査（ポリソムノグラフィー検査）：睡眠中の脳波、眼球運動、酸素飽和度、心電図、下肢の筋肉の動きなどを1泊2日の入院で総合的に調べる検査です。最新の機器を導入しており、睡眠中にコードが絡まるストレスを低減しています。睡眠時無呼吸症候群は、睡眠の質のみならず、糖尿病や心・血管疾患などの合併リスクが上がることから、診断がつけば早期に治療介入を行います。



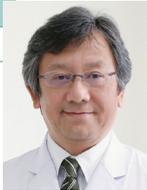
呼気NO濃度の精密測定法

精神科神経科

精神科神経科・心療内科

Neuropsychiatry [Division of Neuropsychiatry and Psychosomatic Medicine]

心の健康を守ります



中川 伸 科長
Director. Shin Nakagawa

外来	0836-22-2506
ホームページ	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mental/
主な対象疾患	精神疾患全般 認知症のBPSD 器質性積精神病、身体治療を必要とする摂食障害、修正型電気けいれん療法の適応を含む難治性気分障害、発達障害等

診療内容

児童・思春期から老年期まで幅広い年齢層を対象に、統合失調症をはじめ、身体疾患から派生する器質性・症状性精神疾患、認知症など、様々な精神疾患の診療を行っています。外来では、1) 児童思春期の精神医療（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、不登校、神経性やせ症、引きこもり）、2) うつ病、双極性障害、3) 不安症、パニック症、身体症状症（ストレス性のめまい・しびれ・痛みなど）、4) 認知症に伴うせん妄・興奮・妄想などについては、近年、社会的ニーズが強まっているため、特に診療に力を入れています。医師一患者さんとの間での信頼関係を診療の基礎とし、患者さんの心理・精神葛藤を理解し、家族・学校・職場など患者さんを取り巻く環境にも配慮し、適切な治療・働きかけ（個人精神療法、家族療法）を行うことを目指しています。また、頭部MRI、SPECT、NIRSなどの神経画像や神経心理・認知機能検査などを必要に応じて実施し、精神薬理学的なエビデンス、治療ガイドラインなどに基づいた科学的かつ適正な薬物療法および精神科リハビリテーションを行っています。

外来診療では一般診療にくわえ、児童思春期の専門外来、院内他科の入院患者さんの様々な精神的問題（抑うつ、不安、不眠、せん妄など）に対するコンサルテーション・リエゾン精神医療チームの院内往診による診療、がん患者さんへの心身の痛みに対応する緩和

ケアチームでの活動、慢性的な疼痛を抱える患者さんに対応するペインセンターでの活動、精神科救急、生体肝移植における精神医学的関与など特色ある取り組みを行っています。

入院診療では、2019年6月に新病棟7階に移転した新病棟で難治性のうつ病や摂食障害の治療を積極的に行っており、特に難治性うつ病に対しては、修正型電気けいれん療法を高年齢の患者さんも含めて行っています。2020年10月からかかりつけ医の先生がいらっしゃる方を対象に（かかりつけ医の先生からの紹介状が必要です）、認知機能（物忘れなど）の精査（頭部MRIなどの頭部画像検査や心理検査などを行います）を1週間で行う検査入院を開始しています。2023年度中には、反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）を導入予定です。これは専用の医療機器を用いて脳に繰り返し磁気刺激を与えることで、特定の脳領域の活動を変化させ、うつ病の症状を改善する治療法で、十分な薬物療法を受けたにも関わらず治療効果が得られない中等症以上のうつ病患者さんが対象となります。

主な検査・治療

神経学的検査、神経心理・認知機能検査、MRI、SPECT、DATSCAN、MIBG、心筋スキャン、NIRS、血液学的検査、薬物療法、精神療法（認知療法など）、修正型電気けいれん療法、作業療法、運動療法



新病棟病室



新病棟外来

子どもたちにより良い未来を



長谷川 俊史 科長
Director, Shunji Hasegawa

外来 0836-22-2508

ホームページ <https://www.ped-yamaguchi.com/>

主な対象疾患

感染症、呼吸器疾患、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、免疫不全症、リウマチ・膠原病、川崎病、白血病、悪性リンパ腫、腫瘍性疾患、ネフローゼ症候群、慢性腎炎、尿細管障害、水・電解質異常、先天性心疾患、不整脈、心筋疾患、脳炎・脳症、てんかん、神経変性疾患、先天代謝異常症、低身長、甲状腺疾患、その他小児内科疾患全般

診療内容

小児科

小児科は小児の内科疾患すべてを担当します。診療スタッフは各分野の専門診療とともに一般小児疾患の診療も行っています。各分野の診療についてはそれぞれの専門領域の研修を修了した専門医が、外来および病棟等で難治性疾患の治療にあたっています。末梢血の免疫細胞の機能解析、サイトカイン解析、超音波検査、電気生理検査（脳波、各種誘発電位、末梢神経伝導速度など）、呼吸機能検査、筋生検、腎生検などの検査を随時行っています。また血液・悪性腫瘍に対する造血細胞移植、新生児低酸素性虚血性脳症や急性脳炎/脳症に対する脳低温療法、川崎病などに対する血漿交換療法などの特殊治療を行っています。小児の疾患は広範囲ですので、専門分野に偏ることなく総合的に治療することが重要です。私たちは、1つの疾患にとらわれずに患児ひとりひとりをスタッフ全員で細やかに診療しています。

主な検査・治療

脳波検査、ビデオ脳波検査、誘発電位、筋生検、呼吸機能検査、内分泌負荷試験、食物負荷試験、生物学的製剤投与、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、運動負荷心電図、ホルター心電図、悪性腫瘍に対する化学療法、腹部超音波検査、腎生検、排尿時膀胱造影検査、腎レノグラム・シンチグラム、脳低温療法



院内学級

アレルギー科

当科ではアレルギー疾患の診断・治療を行います。小児だけでなく成人も対象としています。

アレルギーの原因（アレルゲン）検索のために特異的IgE抗体を調べる血液検査、皮膚テスト（プリックテスト、スクラッチテスト）、負荷試験などを行います。特に食物アレルギー患者の負荷試験は、近年ガイドラインが作成され、診断・治療の目的で当科でも積極的に行っています。アレルギーは、いろいろな臓器の病気に関与しますので、全身を考えた総合的な診断を行い、疾患によって耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などの外来に紹介しています。

また、2022年度から当院にアレルギーセンターが開設されました。山口県の皆様がどこにお住まいでも適切なアレルギー診療を受けられるよう県内のネットワークを構築し、その中心的な役割を果たすことを目的としています。当アレルギーセンターは小児科だけでなく、呼吸器感染症内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科といった複数科で構成されています。アレルギーセンター紹介ページ <https://x.gd/0A703>

主な検査・治療

呼吸機能検査、食物経口負荷試験、生物学的製剤投与、アレルゲン皮膚テスト、アレルゲン舌下免疫療法（アレルギー性鼻炎）



乳幼児の診察



小児科病棟クリスマス会

第一外科

心臓外科、血管外科、呼吸器外科、小児外科、
消化管外科、肝・胆・膵外科
乳腺・内分泌腺外科

Surgery 1 [Division of Cardiac Surgery, Division of Chest Surgery, Division of Pediatric Surgery, Division of Gastroenterological Surgery, Division of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Division of Breast and Endocrine Surgery]

卓越した診療、教育、研究によりわれわれが接するすべての患者の QOL を改善するために



濱野 公一 科長
Director. Kimikazu Hamano

外来 0836-22-2510

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~surg-1/>

主な対象疾患 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患、動脈瘤、動脈解離、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症、胸壁腫瘍、胸膜悪性中皮腫、自然気胸、漏斗胸、臃胸など、脳外科疾患・整形外科疾患以外の新生児期からの小児の外科系疾患全域、食道癌、胃癌、結腸・直腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌、乳癌

診療内容

心臓外科

心臓外科では先天性ならびに後天性心疾患に対する外科治療を行っています。弁膜症などに対し MICS (Minimally Invasive Cardiac Surgery) を施行するなど、低侵襲手術を積極的に取り入れています。また重症大動脈弁狭窄症で高齢やリスクが高いために従来の開胸による外科的大動脈弁置換術の施行が難しい患者に対して、経カテーテル大動脈弁置留術を施行しています。急性大動脈解離など救急疾患にも随時対応しています。

主な検査・治療

虚血性心疾患、弁疾患、先天性心疾患、胸部大動脈疾患

血管外科

血管外科では、胸・腹部大動脈、末梢動脈、静脈、リンパ管の疾患に対して外科的治療を行っています。胸・腹部大動脈瘤に対する血管内治療であるステントグラフト内挿術を早くから取り入れ、積極的に行っています。

主な検査・治療

胸・腹部大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈疾患、リンパ管の疾患

呼吸器外科

肺及び縦隔疾患に対する外科的治療を良性、悪性問わず行っており、また。胸腔鏡手術も早くから取り入れ、精通しております。

主な検査・治療

肺悪性疾患、肺良性疾病、縦隔疾患、胸壁疾患

小児外科

専門性を問われる新生児から中学生までの外科的治療を小児科などと連携をはかりながら専門医が行っております。

主な検査・治療

新生児疾患、鼠径ヘルニア・停留精巣、虫垂炎

消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺・内分泌腺外科

胃、大腸などの消化管および肝、胆、膵疾患の外科的治療を広く行っております。

また乳がんに対する手術・化学療法を行っております。

主な検査・治療

食道疾患、胃疾患、大腸疾患、肝臓疾患、脾臓疾患、胆道膵臓疾患、乳腺疾患、ヘルニア



第二外科

消化管外科
肝・胆・膵外科
乳腺・内分泌腺外科

Surgery II [Division of Gastrointestinal Surgery, Division of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery and Liver Transplantation, Division of Breast and Endocrine Surgery]

消化器外科、乳腺外科、さらには肝移植を担当し、同領域の発展と最先端医療の提供に努めます



永野 浩昭 科長
Director, Hiroaki Nagano

外来 0836-22-2150

ホームページ <http://www.yamadai-gesurgery.jp/>

主な対象疾患

食道癌、食道良性腫瘍、アカラシア、逆流性食道炎、胃癌、胃良性腫瘍、結腸癌、直腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、肛門機能障害、各種痔疾患など、肝臓癌、転移性肝腫瘍、肝門部胆管癌、中・下部胆管癌、胆嚢癌、膵臓癌、十二指腸乳頭部癌、十二指腸癌などの悪性疾患と、胆石症、急性・慢性胆嚢炎、先天性胆道拡張症、慢性膵炎、門脈圧亢進症、脾機能亢進症などにくわえて肝移植の対象となる肝硬変、乳腺疾患、甲状腺疾患(バセドウ氏病、甲状腺癌)、内分泌疾患全般

診療内容

食道・胃・大腸・肝胆膵の外科治療を中心に、化学療法、免疫療法なども行い、消化器癌に対する集学的治療が診療の中心です。

消化管外科

食道・胃・小腸・大腸の外科治療を行っています。食道癌では独自に開発した縦隔鏡下切除術などを行い、良好な成績を得ています。早期胃癌は腹腔鏡補助下胃切除術を標準術式としています。大腸癌の約90%は腹腔鏡補助下に手術し、人工肛門を作らない肛門機能温存術式も行っています。また、食道、胃・大腸ともに症例によってはロボット手術も施行しています。最近では直腸(肛門)脱に対する機能性疾患に対する手術も行っています。

主な検査・治療

上部消化管外科:食道癌、食道良性腫瘍、アカラシア、逆流性食道炎、胃癌、胃良性腫瘍、下部消化管外科:結腸癌、直腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、肛門機能障害、各種痔疾患など

肝・胆・膵外科

肝・胆・膵外科では、肝臓、胆道、膵臓の外科手術を担当します。肝臓外科では、消化器内科、放射線科と密に連携をとって、包括的な診療を心がけております。その中で外科は、肝切除と肝移植を担当します。拡大切除術のみならず、症例によっては、腹腔鏡やロボットを用いて小さな傷での肝切除の施行経験も十分にあり、その治療成績は全国レベルを凌駕しております。

予後不良とされる膵癌、胆道癌などの難治癌に対しては、血管合併切除を併施した拡大切除に加えて、化学療法や放射線治療を応用した集学的治療を展開し、その治療成績向上に努めております。当科は県内唯一の肝胆膵外科高度技能修練施設(A)です。

また末期肝不全に対する根治療法として、肝移植を16年ぶりに再開し、すでに8例の患者さんに施行しました。

主な検査・治療

肝臓癌、転移性肝腫瘍、肝門部胆管癌、中・下部胆管癌、胆嚢癌、膵臓癌、十二指腸乳頭部癌、十二指腸癌などの悪性疾患と、胆石症、急性・慢性胆嚢炎、先天性胆道拡張症、慢性膵炎、門脈圧亢進症、脾機能亢進症などにくわえて肝移植の対象となる肝硬変を担当しています。

乳腺・内分泌腺外科

2/3の患者さんには乳房温存手術を行っています。最初に転移するセンチネルリンパ節をCTで同定する画期的な方法を考案し、転移がなければ腋のリンパ節郭清は不要となります。

マンモトームと言う最先端の機器で触知しない乳癌の診断も可能です。

主な検査・治療

乳腺疾患、甲状腺疾患(バセドウ氏病、甲状腺癌)、内分泌疾患全般

化学療法・免疫療法

附属病院腫瘍センターとともに消化器癌に対して、新しい抗癌剤や免疫療法の臨床試験を行っています。また、遺伝子診断による抗癌剤の投与量決定や副作用予測を行い、癌個別化治療へと展開し、さらに、肝臓癌に対する免疫複合療法の臨床試験の開発と応用に取り組んでいます。



整形外科

整形外科・リウマチ科

Orthopedic Surgery [Division of Orthopedic Surgery and Rheumatism]

人とのコミュニケーションをはじめとしたすべての日常生活動作に関わる運動器の障害・疾病の予防と治療を行うのが整形外科です



坂井 孝司 科長
Director. Takashi Sakai

外来 0836-22-2513

ホームページ <http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~y-ortho/>

主な対象疾患

骨折・変形性関節症・椎間板ヘルニア・骨軟部腫瘍などの整形外科全般、特発性大腿骨頭壊死症、後縦靭帯骨化症などの指定難病、関節リウマチ、リハビリテーション、スポーツ整形外科・小児整形外科疾患、骨粗鬆症

診療内容

整形外科は運動器（骨・関節や脊椎などの骨格とそれを動かす神経・筋・靭帯など）の疾患を扱う診療科です。

具体的には、骨折・変形性関節症・椎間板ヘルニア・骨腫瘍などの整形外科全般、特発性大腿骨頭壊死症、後縦靭帯骨化症などの指定難病、関節リウマチ、リハビリテーション、スポーツ医学に関する診断・治療を行っています。運動器疾患の重要性は、近年社会一般に広く理解されるようになり、整形外科のニーズは増え続けており、山口大学整形外科では、特に下記の領域を得意としています。

- 脊椎・脊髄疾患に関する診断・治療
- 関節外科（股関節、膝関節、肩関節、肘関節、その他）
- 機能再建術、手の外科（マイクロサージャリー）
- 骨・軟部腫瘍
- スポーツ整形外科
- 小児整形外科
- 骨粗鬆症（基礎、臨床）
- 関節リウマチの診断・治療
- リハビリテーション

近年の高齢化により、変形性関節症や脊椎変性疾患が増加し、また骨粗鬆症を基盤とした脊椎圧迫骨折や大腿骨近位部骨折などの外傷、さらにレクリエーションに伴うスポーツ障害が増加し、整形外科のニーズはますます高まっています。治療の過程においては、生活の質 quality of life (QOL) を高めるため、リハビリテーションとの連携もその重要性を増しております。大学病院は地域医療を支える中心的基幹病院であり、整形外科は運動器を扱う他の地域中核病院や診療所と密に連携し、すべての疾病へ高水準の医療提供が可能な医療圏を構築することが肝要であると考えます。また、整形外科だけでなく関連の高いリハビリテーション部、救急診療科などの診療部門、入院・外来医療を支える看護部門や医療技術者との連携も深め、総合的に質の高い医療提供を目指したいと考えております。

主な検査・治療

股関節、脊椎脊髄、上肢（肩肘手、マイクロサージャリー）、膝関節、スポーツ、骨軟部腫瘍、小児整形外科疾患



皮膚科

Dermatology

皮膚は全身の状態を映す鏡のような臓器です
大切にしましょう



下村 裕 科長
Director, Yutaka Shimomura

外来 0836-22-2515

ホームページ <http://dermatology.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

主な対象疾患 皮膚疾患全般（乾癬、湿疹・皮膚炎、尋常性白斑、血管炎、膠原病、母斑症、皮膚細菌・真菌感染症、皮膚癌、脱毛症、蕁麻疹、自己免疫性水疱症、熱傷、および遺伝性皮膚疾患など）

診療内容

皮膚科では、皮膚に症状がある病気であれば、すべて診療対象としております。

代表的疾患としては、皮膚悪性腫瘍（基底細胞癌、有棘細胞癌、メラノーマ、皮膚リンパ腫など）、血管腫、アトピー性皮膚炎、乾癬、接触皮膚炎、じんましん、光線過敏症、脱毛症、皮膚潰瘍、褥瘡、自己免疫性水疱症、膠原病、白癬、皮膚細菌感染症、带状疱疹などのウイルス感染症、熱傷があります。さらに、さまざまな遺伝性皮膚疾患の診察および遺伝子検査も行っています。当科では、すべての皮膚疾患に幅広く対処できるようスタッフ一同が協体制をとっております。診断や治療の難しい患者さんに関しては、全員で診察を行い、カンファレンスで議論することにより、質の高い診断と治療が行われるよう努力しています。また、必要に応じて、他科の医師にも相談し、連携治療を行っております。

主な検査・治療

- ・難治性の乾癬・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹に対する生物学的製剤を用いた治療
- ・熱傷および皮膚腫瘍の外科的治療
- ・悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を用いた治療
- ・円形脱毛症に対する分子標的薬を用いた治療
- ・遺伝子検査



診療科 Clinical Division



形成外科

Plastic surgery

機能及び形態をより正常に美しくすることにより、
生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する外科です



高須 啓之 科長
Director. Hiroyuki Takasu

外来 0836-22-2515

ホームページ <http://dermatology.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

主な対象疾患

- ・新鮮外傷・新鮮熱傷・顔面骨折および顔面軟部組織損傷
- ・手、足の先天異常、外傷・その他の先天異常・母斑、血管腫、良性腫瘍
- ・悪性腫瘍およびそれに関連する再建（乳房再建、頭頸部再建）
- ・瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド・褥瘡、難治性潰瘍（糖尿病性足潰瘍）
- ・その他：眼瞼下垂、顔面神経麻痺、下肢静脈瘤、巻き爪、腋臭症

診療内容

形成外科では外科の基本である「きずをきれいに縫う」ことを重視しています。手術後のきずあとのケアまで専門治療を一貫して行っていますので、特に小児や女性の顔面など整容面の配慮が望ましい症例は、気軽にご相談下さい。顔面骨折や眼瞼下垂に特に力を入れています。形成外科は創傷外科でもあり、糖尿病性足潰瘍等難治性皮

膚潰瘍の外科治療も得意です。

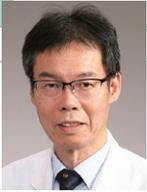
またマイクロサージャリーを用いた再建術（組織移植術）を専門としており、耳鼻咽喉科や口腔外科と合同で、頭頸部がんの治療を多く行っています。乳房再建に関しては人工乳房インプラントを用いた再建も可能です。



泌尿器科

Urology

さまざまな泌尿器科疾患に対して生活の質の向上を目指した患者さん目線の医療を実践いたします



白石 晃司 科長
Director. Koji Shirai

外来 0836-22-2517

ホームページ <http://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~urology/>

主な対象疾患 尿路性器腫瘍（副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂・尿管腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍、精巣腫瘍など）尿路結石症、前立腺肥大症、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎不全、上皮小体機能亢進症、排尿障害（排尿困難、尿失禁など）、男子不妊症、先天性尿路性器奇形、骨盤臓器脱

診療内容

泌尿器科は後腹膜臓器（腹膜の後ろ側にある）である腎臓、副腎、膀胱や男性生殖器である精巣、前立腺、陰茎などの疾患に対して内科的要素と外科的要素を組み合わせることにより患者さんのQOL（生活の質）改善を主眼に置いた治療を行っています。

泌尿器悪性腫瘍

臨床面では浸潤性膀胱癌に対して経尿動的手術と放射線と抗がん剤治療を組み合わせた膀胱温存治療を中心に、困難な症例に対しては膀胱全摘除術と患者さんのQOLを重視した尿路変更術を行っています。前立腺癌に対して神経温存前立腺全摘除術や金球マーカー留置併用強度変調放射線治療（IMRT）を積極的に行っています。

腎細胞癌に対して根治的腎摘除術や腎部分切除術を行っています。また、上記手術は、ロボット支援手術を積極的に行っています。

主な検査・治療

膀胱癌：TUR-BT、ロボット支援下膀胱全摘除術（RARC）、腹腔鏡下膀胱全摘術、前立腺癌：ロボット補助下根治的前立腺全摘術（RAPP）、金球マーカー植え込み術、腎細胞癌：ロボット補助下腎部分切除術（RAPN）

腎不全

臨床面では慢性腎不全症例に対する維持透析（血液透析、腹膜透析）の導入、令和3年は、22例の腎移植を行っており、研究面では腹膜透析モデルにおける腹膜硬化抑制、虚血再環流モデルにおける腎障害抑制などを行っています。

主な検査・治療

腎移植、腎不全関連（テンコフカテーテル留置など）



アンドロロジー、小児泌尿器科

精索静脈瘤、閉塞性無精子症、特発性無精子症など男性不妊に対する薬物療法、外科的治療、研究や停留精巣、尿道下裂、膀胱尿管逆流症など小児泌尿器科疾患に対する治療を行っています。

主な検査・治療

顕微鏡下精索静脈瘤切除術、顕微鏡下精管精管吻合術、尿道下裂手術、膀胱尿管逆流防止術、腹腔鏡下腎盂形成術

女性泌尿器科

骨盤臓器脱（POP）や腹圧性尿失禁に対する外科的治療（メッシュを用いたTVM、LSC手術やTVT法など）を産婦人科や女性外来医師と共同で積極的に行っています。

主な検査・治療

性器脱：ロボット支援下仙骨陰固定術（RASC）、腹腔鏡下仙骨陰固定術（LSC）、TVM、尿失禁（TVTなど）

排尿障害、尿失禁

前立腺肥大症に対して薬物療法や新しい外科的治療（HoLEP：経尿道的前立腺核出術）を積極的に行っています。

また尿失禁に対しては薬物療法や外科的治療（TVT法）を行っています。

主な検査・治療

前立腺肥大症、尿路結石、陰嚢内容手術



眼科

Ophthalmology

眼の様々な病気に対して診断を的確に行い、個々に合わせた最良の医療を提供しています
また、研究で得られた知識や技術を用いて、他施設では行われていない先進的な治療も実践しています



木村 和博 科長
Director: Kazuhiro Kimura

外来 0836-22-2518

ホームページ <https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~eyel/>

主な対象疾患 角膜疾患、緑内障、網膜・硝子体疾患、ぶどう膜炎、アレルギー性眼疾患、白内障

診療内容

角膜

年間 80 件程度の角膜手術を行っています。角膜内皮移植(DSAEK)や深層表層角膜移植(DALK)も積極的に行っています。

また難治性の角膜上皮障害に対する新しい点眼薬を世界で初めて私達の研究チームが開発しました。角膜上皮障害に対し、サブスタンスPとインスリン様成長因子-1というもともと体の中に存在する物質を合わせた点眼薬 FGLM-NH₂ + SSSR 点眼薬で治療しています。さらに、フィブロネクチンの部分ペプチドである PHSRN 点眼薬の有効性も確認し、臨床応用を始めました。

主な検査・治療

角膜移植手術

緑内障

年間 200 件を超える緑内障手術を施行しています。緑内障 / 白内障同時手術、角膜移植後の方、角膜や結膜などに疾患を有する特別な症例に対する手術も積極的に行っています。難治性の緑内障に対しては、緑内障チューブシャント手術や毛様体光凝固術を施行しています。

主な検査・治療

緑内障手術

ぶどう膜炎

ぶどう膜炎は何らかの原因で目の中に炎症が起こっている病気で感染症や癌、全身病と関連することがあります。当大学は多くのぶどう膜炎患者さんを診療する専門施設です。ぶどう膜診療の基本は的確な検査を行い、十分な治療を最良の方法で行うことで、必要な患者さんには手術も行っています。近年、生物学的製剤(抗 TNF- α 治療)が原田病やサルコイドーシスなど難治性ぶどう膜炎の治療にも導入されました。感染によるぶどう膜炎に対しては、PCR を用いた新しい診断方法の開発を進めており、山口大学発の情報で患者さんの役に立てよう研究を進めています。

網膜・硝子体

現在、網膜硝子体外来では、糖尿病網膜症をはじめ裂孔原性網膜剥離や黄斑円孔や黄斑前膜、近年増加傾向にある加齢黄斑変性など、網膜硝子体疾患全般を診療しています。外来診療では、網膜断層撮影装置(OCT)、多局所網膜電図検査(VERIS)及び広角眼底撮影装置などの最新の検査機器を用いて種々の眼底疾患の精密検査を行っています。手術治療では、網膜光凝固(レーザー治療)をはじめとして、糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔や増殖硝子体網膜症には、小切開硝子体手術(MIVS)を導入し、低侵襲手術を行っています。薬物治療(メディカルレチナ)では、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫や近視性新生血管黄斑症といった黄斑疾患を対象に抗 VEGF 療法を施行しております。また、新生児集中治療室と連携し未熟児網膜症の管理、治療も行っています。

主な検査・治療

網膜硝子体手術、抗 VEGF 療法、光線力学療法、眼科レーザー

白内障

加齢に伴うものから先天性や続発性(糖尿病や薬剤服用後)まで様々な原因で発症する白内障に対し、最新の超音波白内障装置により手術治療を行っています。



耳鼻咽喉科

Otolaryngology

QOLの向上を心がけた最先端の医療を提供します



山下 裕司 科長
Director, Hiroshi Yamashita

外来 0836-22-2520

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ent/>

主な対象疾患

めまい（メニエール病など）、難聴、補聴器、人工内耳、人工中耳
副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎（舌下免疫療法、抗体療法、手術治療）、嗅覚障害
滲出性中耳炎、小児難聴、中耳炎（中耳手術、鼓膜形成）、顔面神経麻痺、
音声言語障害、嚥下障害、頭頸部腫瘍、形成外科
甲状腺腫瘍、いびき・睡眠時無呼吸症候群

診療内容

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患について、QOLの向上を常に心がけた最先端の医療を提供しています。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器の疾患については、基礎的研究から得られた知見をもとに、正確な診断と最先端の治療を提供いたします。

慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などの中耳疾患に対しては積極的に手術加療を行っております。鼻、副鼻腔疾患の手術的治療では、ナビゲーションシステムを併用することで、安全で確実な術式を選択しています。最近、社会現象となり注目を集めている、いびき、睡眠時無呼吸症候群に関しては、専門外来を開設し、専門医が診療にあたっております。頭頸部の腫瘍に関しては、手術後の嚥下障害、構音・発音障

害などの機能障害をできるだけ少なくすることを重視して、治療方針を決定しています。

耳鼻咽喉科は、広範な分野の疾患に対応する必要がある特殊な分野ですが、各分野の専門医が、協力して診療に従事していますので、患者さんのご要望にお応えすることができます。

主な検査・治療

鼓室形成術、人工内耳、アブミ骨手術、顔面神経減荷術、内視鏡下副鼻腔手術、扁桃摘出術、喉頭微細手術、頸部郭清術、喉頭悪性腫瘍手術、甲状腺手術、耳下腺手術



経外耳道的内視鏡下耳科手術



ナビゲーションシステムを用いた内視鏡下副鼻腔手術



ラリngoマイクロサージェリー

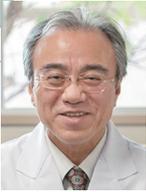


経口的下咽頭喉頭部分切除術（TOVS）

放射線科

Radiology

画像診断からカテーテルを用いた低侵襲的治療まで患者さんにやさしい最先端治療を提供します



伊東 克能 科長
Director. Katsuyoshi Ito

外来	0836-22-2930
ホームページ	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~radiants/index.html
主な対象疾患	画像診断全般、IVR 対象疾患全般

診療内容

各診療科から依頼を受けて画像診断、インターベンショナルラジオロジー (IVR) を提供しています。

画像診断

画像診断部門では、CT、MRI、核医学検査を中心に読影を行っています。

山口大学附属病院では4台のCTが稼働しています。厚さ1mm以下のデータが、以前よりも速く撮像できます。水平断だけでなく、冠状断や矢状断も参照できる環境が整備されており、立体的な位置関係も容易に把握できます。時間分解能の向上によって、心臓の検査などでもブレの少ない画像が撮像できます。また、管電圧の異なる2つの管球を用いた Dual energy という技術を用いることにより、血管壁の石灰化をより正確に除去したり、造影剤の分布を視覚的に表示したりすることができます。

MRIは、3テスラ装置が3台、1.5テスラ装置が2台稼働しています。特に3テスラ装置は新しい機種が導入されており、以前よりも高画質の画像を撮像できるようになっています。MRIでは、様々なシーケンスを比較することにより、CTだけでは分かりにくい病変の特徴を捉えることができます。また、血流や胆汁などの流れも可視化できるようになっています。

核医学検査では、SPECT/CTが撮像できる装置が導入されています。フュージョン画像を作成して、病変部位の解剖学的な位置関係をより正確に描出できます。

これらの新しい診断機器を駆使して、全身諸臓器疾患の総合画像診断を行っており、診断結果は報告書で提供しています。各専門診療科のニーズに応えるべく、質の高いレポートの作成を心がけています。



フィルムレスシステムを用いた読影風景

インターベンショナルラジオロジー

IVR 部門では、診断から治療、血管系から非血管系 IVR に至る幅広い手技を行っています。日本 IVR 学会の専門医修練認定施設であり、複数の IVR 専門医が在籍しています。

血管系 IVR では、出血や悪性腫瘍に対する動脈塞栓術を中心に行っています。コイルやカテーテルなどのデバイスの進歩により、以前よりも細い血管へのアプローチが可能になっています。その他にも、静脈ポート留置術、血管拡張術、ステント留置術、血管内異物除去術、副腎静脈サンプリングも行っています。

非血管系 IVR では、主に針生検やドレナージ術を行っています。経皮的針生検は、主に肺や腎臓の腫瘍を対象にしています。超音波または CT を用いたイメージガイド下で行っており、確実かつ合併症の少ない手技を心がけています。

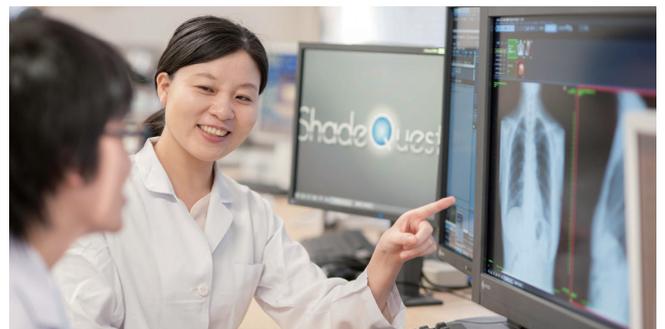
このように、各専門スタッフが最先端技術を駆使して診療しておりますので、お気軽に放射線科にご紹介下さい。

主な検査・治療

CT、MRI、核医学、IVR、超音波、胸部単純 X 線写真



インターベンショナルラジオロジー



放射線科スタッフ

放射線治療科

Radiation Oncology

精度が高く体に優しい放射線治療を提供します



田中 秀和 科長
Director. Hidekazu Tanaka

外来

0836-22-2659

診療内容

放射線治療は、手術療法、化学療法とともにがん治療の3本柱の一つです。臓器の機能と形態の温存が可能であり、体の負担が小さな治療を行うことができます。

照射技術の進歩に伴う治療成績の向上と有害事象の低減化を背景に、放射線治療を選択される患者さんは年々、増加しています。放射線治療が適応となる疾患の範囲は広く、また医学的な理由から手術が困難な患者さんであっても治療できることがほとんどです。超高齢化社会の到来とともに、その有用性は社会的にも注目されています。

当院で施行している放射線治療は外部照射と小線源治療です。外部照射は、3台のリニアック（直線加速器）を用いています。通常の3次元照射に加えて、体幹部定位放射線治療（SBRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）や動体追跡照射などを施行しています。これらは、より特殊な治療として「高精度放射線治療」と呼ばれています。2015年には最先端の照射装置として、米国と日本で開発された動体追跡迎撃システムが世界で初めて当院で稼働し、2023年にはその最新版のシステムも稼働が開始しました。さらに呼吸で動く病変の位置を予測し追いかけて治療する追尾照射が可能な機器が稼働しました。小線源治療では、イリジウム（Ir-192）を用いた腔内照射を子宮癌などに対して施行しています。CTやMRIをもとに病変や周辺臓器の線量を評価する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。

私たちは各診療科と連携し、それぞれの患者さんに最も適した治療法を提供しています。

動体追跡照射システム

動体追跡（迎撃）照射では体内に留置した金マーカを2方向のX線透視で確認し三次元的な位置を連続的に追跡することで腫瘍の位置をリアルタイムに認識し、呼吸のタイミングに合わせて正確に放射線を照射することができます。2015年からは、世界初のシステムが当院で稼働を開始し、2023年からはそのシステムをさらにアップデートしたシステムも稼働しました。腫瘍の位置を予測し、追いかけて照射を行う動体追跡（追尾）照射が可能なシステムも稼働を開始しています。

体幹部定位放射線治療（ピンポイント照射）

3次元的に多方向からミリの精度で病変を狙い撃ちします。肺や肝臓などの小さな腫瘍に適しています。病変が呼吸で動く場合は「呼吸性移動対策」と呼ばれる工夫を行います。当院では多種類の呼吸性移動対策が実施可能であり、国内トップレベルです。患者さんの状態や腫瘍の動きにあわせて呼吸性移動対策を提案可能です。

強度変調放射線治療（IMRT）

強度変調放射線治療（IMRT）では、より複雑な形状の線量分布をつくることができます。隣り合う正常臓器を避けて、有害事象（副作用）を増加させることなく、腫瘍に対して正確に高い線量を照射することができます。例えば前立腺癌の場合、前立腺の形態に合わせて高い線量を照射し、隣接する直腸には高い線量が当たらないようにすることが可能となります。これにより、手術と匹敵する治療成績が得られるようになりました。当院では主に前立腺癌の他、頭頸部癌、脳腫瘍、肺癌などでIMRTを実施しています。

主な検査・治療

強度変調放射線治療（IMRT）：前立腺癌、頭頸部癌、脳腫瘍、肺癌など、体幹部定位放射線治療：肺癌、肝臓など、小線源治療（腔内照射）：子宮頸癌、子宮体癌、腔癌、術中照射：体外骨照射



産科婦人科

Obstetrics and Gynecology

私達はいつも女性の幸せを考えています



杉野 法広 科長
Director. Norihiro Sugino

外来	0836-22-2522
ホームページ	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~obgyn/index.html
主な対象疾患	産婦人科全般のあらゆる疾患 婦人科悪性腫瘍、良性腫瘍、生殖内分泌疾患、不妊症、ハイリスク妊娠、合併症妊娠、胎児疾患

診療内容

婦人科悪性腫瘍

あらゆる婦人科腫瘍に対して、診断から治療まで統一した方針で適切な医療を提供しています。

悪性腫瘍については、それぞれの患者さんの状態に応じて手術療法、化学療法、放射線療法を適切に組み合わせた集学的治療を提供しています。早期子宮癌に対しては、腹腔鏡下あるいはロボット支援手術といった低侵襲手術を取り入れ患者さんの負担を減らすことができる様に努めています。また他科医師との連携による拡大手術、あるいは手術前に化学療法を先行して手術を行うなど、症例ごとに適切な手術方法の選択を行い、より良い治療になるよう取り組んでいます。

進行卵巣癌においてはまず診断的腹腔鏡下手術による組織採取を行い、癌細胞の特性を調べた上で、適切な薬を選択する個別化治療を行っています。

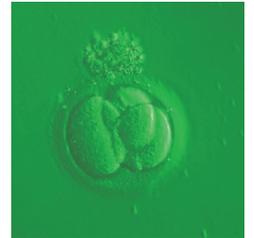
遺伝性乳癌卵巣癌症候群に関して、遺伝診療部や乳腺外科とも連携して、カウンセリングから遺伝子診断、その後の予防的手術あるいはサーベイランス等の包括的な医療を提供しております。

生殖内分泌・不妊症

不妊症をはじめ、ホルモン異常、月経異常、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮の先天奇形といった生殖領域の広範な問題に対応しています。

子宮筋腫や子宮内膜症などの良性疾患に対する手術については、ほとんどの症例を腹腔鏡や子宮鏡などの低侵襲の内視鏡手術で対応可能です。

不妊症では、多岐にわたる不妊原因の正確な診断およびそれに基づいた治療を行っています。さらに、難治性不妊症の患者さんには、体外受精や顕微授精といった高度生殖補助医療も積極的に提供しています。タイムラプスインキュベーターを用いた胚培養も行っております。また、当院では、松果体ホルモンであるメラトニンを用いることで不妊治療成績が改善することを世界に先駆けて報告しており、こういった当院独自の特徴ある治療も行っております。



周産期医療

正常分娩の他、ハイリスク妊娠（前期破水、切迫早産、胎児発育不全、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など）や、合併症妊娠（糖尿病、高血圧、膠原病、内分泌疾患、血液疾患、精神疾患等）に対して患者さんの病態に応じた適切な周産期医療を行っています。

また、胎児期に母体を通して処置を行うことで胎児、新生児予後を改善させる胎児治療（胎児胸水に対する胎児胸腔羊水腔シャント術、双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術）も積極的に行っています。

総合周産期母子医療センターとして、周辺地域のみならず、山口県を含む中国四国地方にも目を向けた周産期医療に取り組んでいます。



主な検査・治療

- 開腹手術：腹式単純子宮全摘術、卵巣腫瘍手術（試験開腹術）、子宮頸がん手術、子宮体がん手術、卵巣がん手術
- 内視鏡下手術：子宮鏡下ポリープ切除術、子宮筋腫核出術、腹腔鏡下卵管摘出術、腹腔鏡下子宮筋腫核出術、腹腔鏡下子宮全摘術、腹腔鏡下子宮体がん手術
- 経膣手術：円錐切除術、膣式単純子宮全摘術
- 産科手術：帝王切開術、子宮頸管縫縮術、胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術、胎児胸腔羊水腔シャント術



麻酔科蘇生科

麻酔科蘇生科
ペインクリニック

Anesthesiology [Division of Anesthesiology, Division of Pain Clinic]

頼りになる麻酔科蘇生科を目指して



松本 美志也 科長
Director. Mishiya Matsumoto

外来 0836-22-2523
ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~anethy-u/>

診療内容

安全と快適性を追求した麻酔と疼痛疾患の全人的治療（ペインクリニック）を行っています。

麻酔科蘇生科

手術室において外科系全般の手術の麻酔を行うほか、カテーテルを用いた血管内治療の麻酔や小児を中心とした各種検査の麻酔、電気けいれん療法などの麻酔を行っています。心臓病や脳血管障害、肺疾患などの重症合併症をもつ高齢者の麻酔も増えており、患者本人、ご家族、外科医を交えて、最善の治療法、麻酔法を十分協議して決定しています。手術中の痛みをとるだけでなく、患者さんが手術前、手術後も快適に過ごせるよう、高度で快適な医療の提供を目指しています。

ペインクリニック

ペインクリニック部門では、痛みの診断と治療を専門に行っています。代表的な疾患として、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症による腰下肢痛、線維筋痛症、低髄液圧症候群、複合性局所疼痛症候群などがあります。薬物療法、神経ブロック療法、手術療法などを組み合わせ、それぞれの患者さんに最適な治療を提供しています。診断・治療にCTやMRI、内視鏡などを取り入れ、高度な疼痛管理を目指しています。癌性疼痛の患者さんには、麻薬や新しい疼痛治療薬を取り入れ、快適な生活を送っていただけるような医療を提供しています。

主な検査・治療

薬物療法、各種神経ブロック療法、がんに対するブロック療法、経皮的髄核摘出術、脊髄電気刺激療法、ボツリヌス毒素による治療



気管挿管



硬膜外麻酔

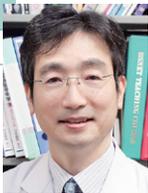


透視下神経ブロック

脳神経外科

Neurosurgery

外科医の目と技を持ち、神経系の総合医療を行っています

 石原 秀行 科長 Director. Hideyuki Ishihara	外来	0836-22-2528
	ホームページ	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~neuro-w1/
	主な対象疾患	脳神経外科全般の診断、治療。特に、以下の領域に専門医がいます。 1) 脳卒中（くも膜下出血、脳梗塞、脳出血） 2) 脳腫瘍 3) てんかん 4) パーキンソン病、顔面痙攣、三叉神経痛 5) 頭部外傷 6) 水頭症、小児脳神経外科 7) 脊椎脊髄疾患

診療内容

脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、てんかん、パーキンソン病、先天性奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患など多くの病気を治療しています。自然科学の発展と、技術革新の波に乗り、脳神経外科の発展は目覚ましく、患者さんお一人お一人のニーズに合わせた優しい治療ができるようになりました。

主な検査・治療

顕微鏡手術、CT、MRI、脳波、血管撮影、機能的脳神経外科手術、脳血管内手術、内視鏡手術

脳血管障害

くも膜下出血と脳動脈瘤に対しては開頭手術とカテーテルを用いた脳血管内塞栓術のうち、患者さんに適した方法を選んでいきます。脳梗塞の超急性期には血管内治療による超急性期再開通療法を積極的に行っています。各種脳卒中に対する内科的治療や予防医療にも取り組んでいます。例えば脳虚血状態の患者さんには脳梗塞を予防するために外科的治療（脳血管バイパス手術、内頸動脈血栓内膜剥離術）または血管内治療（経皮的血管形成術）を行っています。

脳腫瘍

脳腫瘍手術を安全に行うため、術前のMRIでは腫瘍の位置だけでなく、神経線維の位置を見えています。手術中はそれをコンピューターでナビゲーションできます。麻酔中でも患者さんの手足の運動能力や会話の能力を測りながら手術を行います。放射線療法や化学療法も行っており、定位放射線療法は厚南セントヒル病院と連携して行っています。下垂体腫瘍に対しては患者さんに負担の少ない鼻孔からの手術を行っています。

脳神経外傷

日本脳神経外傷学会のガイドラインに従った管理目標を設定して24時間体制で厳重な管理を行っています。重傷頭部外傷の患者さんには各種モニタリング下に脳低温療法を行って脳の腫れを軽くし、脳を保護する治療をしています。命が助かり機能回復がみられる患者さんが増えています。

機能神経外科

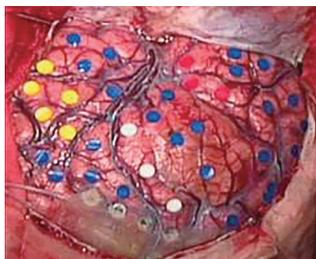
薬の効果が不十分なパーキンソン病やてんかんを手術で治療しています。無動症や振戦などの不随意運動症には電極を埋め込んで刺激療法を行っています。てんかんにはビデオと脳波の同時記録を行って、見つけた焦点を切除しています。顔面の痙攣や痛み、手足の頑固な痛みに対する手術も行っています。

小児神経外科

水頭症に対して神経内視鏡手術または脳室腹腔シャント術を行っています。二分脊椎症の治療、および予防のための手術を行っています。脳性麻痺による痙攣に薬液持続注入療法や脊髄後根切除術を行っています。子どもの脳腫瘍、脳血管障害、外傷、機能疾患、脊髄疾患などは、各分野の医師と協力して治療を行っています。

脊椎・脊髄外科

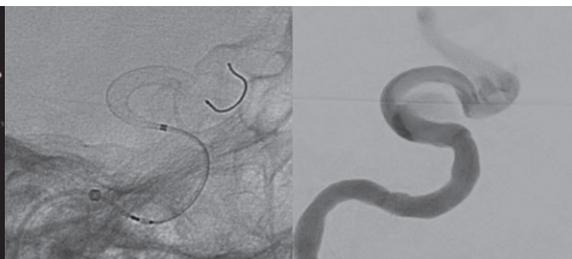
脊髄は脳と同じ中枢神経ですから、脳に起こる病気は全て脊髄にも発生します。脳血管障害、脳腫瘍、機能脳神経外科、小児脳神経外科の専門医と協力しながら、脊髄疾患のより良い治療を目指します。加えて脊椎には「動く」能力を保つ必要があるため、棘突起の温存、椎弓の形成を基本に、筋肉の損傷をできるだけ避けるような手術を心がけております。



術中神経機能マッピング



脳動脈瘤に対する新しい治療（フローダイバーター）



歯科口腔外科

Oral and Maxillofacial Surgery

地域に根ざし、高度な歯科医療を実践します



三島 克章 科長
Director. Katsuaki Mishima

外来 0836-22-2530

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~oms0/>

主な対象疾患 口唇・口蓋裂、口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節疾患、睡眠時無呼吸症候群

診療内容

口腔外科疾患の代表である口腔癌、顎変形症、口唇口蓋裂を中心に、外傷や顎関節疾患などの口腔外科手術全般を担当しております。口唇口蓋裂におきましては、出生前の胎児超音波検査にてその存在が発見されましたら、病気のことや治療のこと、そしてその結果につきましてご両親へ説明させて頂くことから治療が始まります。出生直後から大人になるまでの間、歯や顎の発育、そして言語発達等を評価しながら適切な時期に適切な治療を行っていく、いわゆる一貫治療を実践しております。最終的に大人になった時点で、形態的にも機能的にも裂がなかったかの如く仕上げていくことを目標に治療に取り組んでおります。顎変形症治療では、矯正専門医の先生方と連携を取り、最良の咬合と顔貌が得られるように治療計画を立て、安全に手術が遂行できるように取り組んでおります。そして、口腔癌治療においては、標準治療をベースとし、放射線治療科、放射線科等と連携を取り集学的治療も取り入れて、治癒率の向上を目指しております。また、形成外科等の診療科とも連携を図り、術後の形態や機能の改善、QOL向上を目指しております。

全身疾患を有する患者様に対しては、各科との綿密な連携を図り、一般歯科治療も行っております。医科入院患者の周術期や化学療法・移植治療の際の口腔ケアにおいては、口腔ケアチームを設け、合併症の予防に努めています。また、摂食・嚥下チームに参画して、早期の安全な経口摂取の実現を目指して取り組んでいます。

当科では、常勤の歯科技工士1名、歯科衛生士3名が所属しており、迅速で高品質の義歯等の技工物の提供、そして、高水準の口腔ケアの提供が可能です。

主な検査

言語診断に必要な鼻咽腔内視鏡検査やナゾメータ検査、頸部超音波検査、セファロ・レントゲンや3D-CTを用いた顎顔面形態検査

主な治療

口唇口蓋裂・口腔腫瘍・顎変形症・顎顔面外傷・顎関節疾患に対する手術療法、睡眠時無呼吸に対する口腔内装置を用いた治療、障害者歯科治療、口腔ケア



外来診療



手術

CLINICAL FACILITY

診療施設

検査部	34	先進救急医療センター	44
手術部	35	総合周産期母子医療センター	45
放射線部	36	地域遠隔医療センター	46
輸血部	37	生活機能向上センター	46
リハビリテーション部	38	高次統合感覚器医療センター	47
集中治療部	39	再生・細胞治療センター	47
総合診療部	39	超音波センター	48
病理診断科	40	腫瘍センター	48
光学医療診療部	41	肝疾患センター	49
遺伝・ゲノム診療部	41	血液浄化療法センター	49
栄養治療部	42	緩和ケアセンター	50
漢方診療部	43	アレルギーセンター	50
放射線治療部	43		

検査部

Clinical Laboratory

高いレベルの検査を通じてさらなる治療の向上を目指しています



山崎 隆弘 部長
Director. Takahiro Yamasaki

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~jnaka/kensabu/index.html>

診療内容

検査部は外来あるいは入院患者さんが正しい診断と適切な治療が受けられるように、血液検査、尿検査、微生物検査、生理機能検査（心電図、脳波、呼吸機能検査等）など多くの検査を専門に行う部門です。主要な血液検査については24時間体制で行われています。

部内でのデータ管理に加えて、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会などによる外部精度管理を定期的に行い、正確なデータをお届けできるように日々努力しています。2020年3月にはISO15189を取得し、検査部の検査技術や設備が健全に管理運営されていることが国際的に認められています。2023年5月8日に検体検査室が移転し、採血室を含め多くの検査機器が更新され、より迅速な結果報告が可能となっております。



採血室



生化学的検査



免疫学的検査



血液検査



凝固検査



尿検査



微生物学的検査



遺伝子関連検査



心電図



呼吸機能検査

手術部

Operating Theater

手術部では各診療科の手術が円滑に行えるように日々努力しています



永野 浩昭 部長
Director. Hiroaki Nagano

診療内容

1. 主な診療領域

手術部で行われる手術・処置及び検査の管理・調整

2. 手術部の概要

手術部は外科手術のみならず、消化管内視鏡検査や骨髄採取、中心静脈カテーテル留置、精神神経科の電気痙攣療法などの侵襲を伴う内科的治療においても、診療が安全に遂行されるための場を提供する部門です。したがって、手術部はすべての診療科が関与する中央診療部門です。

3. 手術部の設備

手術室は現在 16 室あり、心臓血管外科手術、脳神経外科手術、脊椎外科手術など多くの機材が収容できる大きな手術室、内視鏡用モニターが設置されている手術室など、大学病院で行われる多種多様な手術に対応できるように設計されています。特殊な手術室としてバイオクリーン室が 3 室、ハイブリッド室が 2 室（シングルプレーン 1 室、バイプレーン 1 室）、術中に MRI 撮影が可能な MRI 室 1 室があり、より幅広い手術に対応できるようになっています。また 2 室には、ストレスの少ない作業環境を提供でき、患者さんにも優しい輻射熱式空調システムを採用しています。2012 年 9 月より手術支援ロボット（ダ・ビンチ）が運用開始され、2023 年 3 月には 2 台目のダ・ビンチが納入されました。従来は前立腺全摘術や腎部分切除術などの泌尿器科領域の手術が主に行われていましたが、保険適用の拡大に伴い、食道、胃、肝臓、肺や縦隔、子宮などの手術もロボット支援下で行われるようになってきています。2013 年 1 月より、内視鏡外科手術機器がハイビジョン化され、高画質による拡大視効果により、繊細な手術が可能となりました。これらの画像は手術室スタッフのほか学生も共有できることから、医学教育上も非常に有用です。2013 年 9 月に、血管造影を行い易い放射線投影装置を設置したハイブリッド手術室の運用を開始しました。これらの機器により質の高い手術を行うことができるようになりました。手術室内の院内 LAN も充実し、診療録やレントゲンなどの画像は電子カルテとして各手術室で閲覧でき、手術中も大型モニターで画像確認しながら手術を行っています。手術中の画像・モニターは教育・安全管理目的で保存され、画像を研究室や測定監視室に中継できる機能も有しています。

4. 安全管理

(1) 周術期看護

2005 年 3 月から、手術患者さんの術前訪問を実施しています。手術前日に病棟訪問し、患者さんやご家族の不安やご希望をお聞きし、病棟看護師との情報共有化に努めています。手術中は手術当たり 2～3 名の看護師で担当し、医師の手術介助はもとより、手術中の患者さんの生体機能維持に努め（体温管理など）、身体的不具合の除去（耐圧分散マット使用による褥創予防やフットポンプ使用による深部静脈血栓症予防など）、局所麻酔患者の苦痛の軽減に関わります。また 2008 年 2 月からは術後も訪問させて頂き、患者さんの術後

回復経過、心理状態を理解し、周術期の継続看護を充実できるように努力しています。2023 年 4 月より、手術看護認定看護師、手術看護指導実践看護師、周術期管理チーム看護師によるハイリスク患者への術前外来オリエンテーションの導入を開始し、より安全で安心して手術を受けていただけるよう取り組んでいます。

(2) 医療事故防止のための安全対策

1. 患者誤認の防止、タイムアウトの手順
2. 手術部位の誤認の防止
3. 体内異物遺残の防止、カウントマニュアルの遵守
4. 輸血、薬剤の取り扱い
5. 切除組織の紛失の防止
6. 電気メスによる体表面熱傷の予防
7. 手術中の圧迫による神経・皮膚障害の予防
8. 消毒剤による接触性皮膚炎・化学的熱傷の回避
9. ラテックスアレルギー対策
10. 深部静脈血栓症の予防
11. 転倒・転落防止、患者の移動・搬送時の事故防止
12. 患者急変時の迅速対応
13. 患者の所持品の紛失防止
14. 医療従事者に関わる事故、針刺し事故防止・対応手順
15. 災害時対応手順

1～15 についてマニュアルを作成し、その遵守に努めています。特に褥瘡予防のための体圧分散マットと深部静脈血栓症予防のためのフットポンプを完備し、より安全な手術を行える環境を提供しています。

5. チーム医療

手術部では医師・麻酔科医・看護師・ME 機器の操作と保守点検を行う臨床工学技士・薬剤師など多くのスタッフが協力して働いています。また、手術中には検査部・輸血部・放射線部とも関わります。さまざまな職種との協力によって手術が安全に行われています。



手術部看護職員

放射線部

Radiological Technology

高度画像診断を支える確かな技術！

最新鋭画像診断機器とエビデンスに基づいた高い技術力を備えた医用画像のプロフェッショナルが先進医療をサポートしています

高精度で最良の治療を！

国内有数の動体追跡システムと高精度な治療装置で今できる最良の放射線治療を提供します

専門的な資格をもつスタッフが One Team で患者さんや地域をサポートしています



伊東 克能 部長
Director. Katsuyoshi Ito

診療内容

当院では、検査目的に必要な放射線量を担保しながら被ばく線量を最小限に抑える、「放射線量の適正化」に努めています。過剰な医療被ばくを防ぐために被ばく線量の記録・管理を行っています。

放射線診断部門

放射線診断部門は、主に X 線検査、IVR、CT 検査、MRI 検査、核医学 (RI) 検査を行っています。専門知識を有する専門技師も多数在籍しています。

・X 線検査

X 線撮影、透視検査、歯科撮影など、FPD による高画質と低被ばく検査に取り組んでいます。DXA 装置による高精度な骨密度測定も行っています。

・IVR

従来の血管造影検査をはじめカテーテルを用いた治療を行っています。ハイブリッド OPE 室には自走式の Angio 装置が設置されています。

・CT 検査

超高精細 CT、2 管球搭載 CT (Dual Energy CT) 2 台などの最新装置を導入し、超高画質および低被ばく検査に積極的に取り組んでいます。

・MRI 検査

AI (人工知能) による最新の画像処理を行っています。OPE 室にも MRI を設置し手術中に MRI 検査を行うことも可能です。

・核医学検査

SPECT/CT 装置と 3 検出器カメラの導入により高精度な生体情報を得ることができます。RI を用いた核医学治療も行っています。

放射線治療部門

定位放射線治療、強度変調放射線治療 (IMRT)、動体追跡照射、画像誘導放射線治療 (IGRT)、¹⁹²Ir (イリジウム) による腔内照射など高度な放射線治療を行っています。また、山口県内外への施設に対する支援を行いながら、地域とともに放射線治療技術の向上に務めています。IMRT など高精度な放射線治療が可能な装置も新たに導入されました。



ハイブリッドOPE室自走式Angio装置 Discovery IGS730 (GE社製)



OPE室設置MRI装置 SIGNA Artist (GE社製)



放射線治療装置Radixact(Accuray社製)

輸血部

Blood Transfusion

輸血副作用を避けるため、輸血は最小限にとどめ、適切な血液製剤を用いるように努めています



山崎 隆弘 部長
Director, Takahiro Yamasaki

診療内容

輸血のための検査と輸血用血液製剤とアルブミン製剤の管理を行っています。また、当院輸血部の特徴として、自己血輸血のための自己血の採血・管理、末梢血幹細胞移植のための末梢血幹細胞の採取などを行っています。

輸血検査

検査項目は血液型検査、赤血球不規則抗体検査、交差適合試験、血小板抗体検査などです。輸血検査は検査技師による24時間体制で実施しています。

輸血用血液製剤管理

輸血用血液の厳密な温度管理を行い、管理のためのコンピューターシステムを導入しています。

自己血輸血

手術前にあらかじめ自己血の採血を行い、手術中に輸血を行います。通常の輸血による感染症などを回避することができます。

末梢血幹細胞移植

末梢血中の造血幹細胞を成分採血装置により採取し、この後、化学療法時に輸注を行います。このことにより末梢血の速やかな回復が得られます。



末梢血幹細胞採取

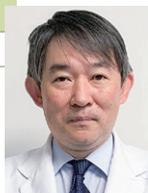


自動輸血検査装置

リハビリテーション部

Rehabilitation Center

患者さんのニーズにあった急性期リハビリテーションを支援します



坂井 孝司 部長
Director, Takashi Sakai

診療内容

リハビリテーション部は医師3人、理学療法士20人、作業療法士8人、言語聴覚士3人、看護師1人、事務1人で構成され、医師の処方に基づき理学療法、作業療法、言語聴覚療法および手の外科手術後のハンドセラピーを行っています。訓練室はB棟3階にあり、十分な面積の訓練室には各種温熱療法機器、水治療室、BIODEXといった筋力評価装置を備え、各種の多角的アプローチが可能です。脳梗塞などの発症早期や術直後などで早期リハビリテーションが必要な患者さんに関しては、担当医の申し込みに応じて病棟でのベッドサイドリハビリテーションを行っています。病状が安定し訓練室でのリハビリテーションが可能になれば、訓練設備の整った訓練室リハビリテーションへと順次切り替えていきます。当院の高次機能病院としての特性と訓練士の人的制限のため、リハビリテーション部における訓練は入院患者さんが中心であり、退院後は近隣の病院にて維持期のリハビリテーションの継続をお願いすることとなります。

また各診療科の患者さんの問題点に対して、毎週火曜日の午後4時30分からリハビリスタッフが病棟担当医や病棟看護師と合同でリハビリテーションカンファレンスを行い、個々の患者さんのリハビリテーション上の問題点を検討しリハビリ目標の統一化を図っています。



スタッフ



言語聴覚療法



反重カトレッドミル



日常生活動作練習



治療的電気刺激



関節可動域運動



運動療法室

集中治療部

Intensive Care Unit

安全で満足度の高い先進的医療を提供します



松本 美志也 部長
Director. Mishiya Matsumoto

診療内容

脳、心臓、肺、肝臓、腎臓などの重要臓器の機能が低下した患者さん、重症感染症の患者さん、長時間に及ぶ大手術後（心臓・大血管手術、食道癌手術、肝臓癌手術、脳外科手術など）の患者さんの全身管理を行い機能回復をはかるために、集中的な治療を行っています。

特殊な診断・治療技術

重篤な病態の患者さんはもとより、糖尿病、高血圧、動脈硬化症などのありふれた疾患でも、その要因が複合的になると医学の広い知識と高度の医療技術を結集して治療する必要があります。集中治療部は全身管理を行う上で高度診療機能を備えています。原因となる疾患に対する治療とともに、呼吸・循環・代謝など生体機能を迅速、適切にサポートする部門です。

呼吸・循環を補助する機器（人工呼吸器、経皮的心肺補助、大動脈内バルーンポンピング）、肝臓や腎臓を補助する機器（持続的血液濾過透析、血液透析、血漿交換の装置）などを備え、全身管理に精通している集中治療専門医、各診療科の専門医および、看護師・薬剤師・理学療法士・臨床工学技師スタッフがチームを組んで診療にあたっています。



カンファレンス

総合診療部

General Medicine and Primary Care

何科に行ったらいいの？
分からないときは一度ご相談ください



黒川 典枝 部長
Director. Fumie Kurokawa

診療内容

日常生活で生じる、ありふれた病気や症状のある患者さんを診療の対象にしています。あるいは、どのような症状の患者さんでも診療致します。

大学病院の診療科としては「一般内科」を標榜していますが、内科学領域としては「総合診療学」です。総合診療科とは、最近の内科学領域が消化器、循環器、内分泌などのように臓器専門科別に細分化しているのに対して、臓器・年齢・性別にとらわれず、幅広く総合的に患者さんの病気や症状を診てゆく診療科です。そこで、当科に来院された患者さんであれば、まず、どのような訴えでも診察を断りません。適切な診断をつけ、一般的な治療を行います。その上で、専門診療科に診療を依頼したほうが良い場合には、適切なタイミングで専門診療科に紹介します。また、常に「患者中心の医療」を心がけ、全人的医療をめざしています。全人的医療とは、患者さんの身体的な問題はもちろんのこと、疾患に関連する心理社会的な問題についても対応できる医療です。



一般内科診察室

病理診断科

Division of Surgical Pathology

病理診断はより重要となっています
患者さんの立場で詳細な病理診断を提供出来るように努めています



星井 嘉信 科長
Director, Yoshinobu Hoshii

診療内容

大きな病院には病理専門医が働いています。

病理診断科で働く病理専門医の最大の業務は、ガラスの上の標本をみて病気を診断することです。分かりやすく言うと、最終的な病名をつけるのです。病理診断に基づいたインフォームドコンセントを行って治療方針が決定されます。もちろん、先端医療にも病理専門医が必要です。

バーチャル・スライドシステム

標本をデジタル化する機器です。遠隔診断や今後のAIを用いた病理診断に対応可能です。

病理標本作製室

診断に必要なガラス標本作製するには、処理を加えた組織を写真のようにマイクロームという機器を用いて約4ミクロン(1ミリの1000分の1)の厚さに削り取り、ガラスに張り付けて染色します。都道府県がん診療連携拠点病院としてがんゲノム診療に適した品質管理および精度管理に努めています。

液状検体自動標本作製装置

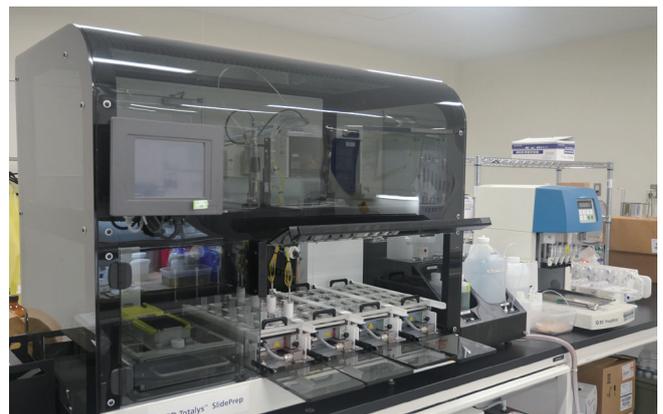
口腔や婦人科領域、甲状腺や乳房などから採取した材料や、尿などの検体から、細胞を集めて顕微鏡で病気を診断する方法もあります。



バーチャル・スライドシステム



病理診断科標本作製室

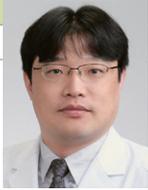


液状検体自動標本作製装置

光学医療診療部

Division of Endoscopy

最先端の画像診断を提供
体にやさしい内視鏡診断、治療を提供しています



高見 太郎 部長
Director. Taro Takami

診療内容

食道・胃・十二指腸・小腸・大腸までの全消化管と肝臓、胆嚢、胆道、膵臓の疾患に対して、内視鏡を利用した診断と低侵襲な治療を提供します。診断に関しては、色素による精密検査や拡大機能を持つ内視鏡、診断精度を向上させるために画像を自動的に加工する画像強調観察、粘膜下の情報も得られる超音波内視鏡などを駆使して正確な診断を行っております。治療に関しましては、従来のスネア（金属の輪）を用いて腫瘍をしばって切除する粘膜切除術に加えて、より広い範囲を切除できる粘膜下層剥離術にも積極的に取り組んでおります。

肝硬変に合併した食道や胃の静脈瘤や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の診断・治療にも実績があります。小腸の病気もカプセル内視鏡やバルーン内視鏡により診断・治療が可能となりました。胆嚢、胆道、膵臓に関しても超音波装置を内蔵した内視鏡により高度な診療を提供しております。

遺伝・ゲノム診療部

Division of Medical Genetics

病気の遺伝とその検査（種々の遺伝子検査、がんゲノムパネル検査等）について、
どんなご相談にも答えられる診療部を目指しています



伊藤 浩史 部長
Director. Hiroshi Itoh

診療内容

1. 遺伝カウンセリング

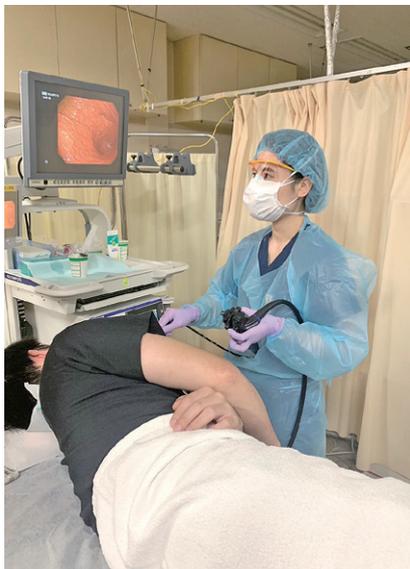
遺伝診療外来では、病気の遺伝について、専門医による相談を行っています。遺伝のしかた、検査、治療、予防など、どんなことでもお気軽にご相談ください。ご家族のことでもご自身のことでも、病気の遺伝について悩んでいることはありませんか？この病気は遺伝するのだろうか？予防策や治療法はあるのだろうか？など、妊娠・出産から小児・成人の病気（遺伝性がんも含む）まで遺伝に関する問題を、遺伝の専門医及びスタッフが一緒に考えます。

2. 遺伝子検査

山口大学医学部附属病院遺伝子検査室にて遺伝子検査を実施しており、研究レベルから臨床検査レベルまで、遺伝子検査に関するあらゆる事に対応いたします。医療関係者で遺伝子検査についてご質問がある方は、ぜひお問い合わせください。

3. がんゲノム医療

山口大学医学部附属病院はがんゲノム医療連携病院として、がんゲノムパネル検査も行います。



上部消化管内視鏡検査



遺伝子解析

栄養治療部

Division of Medical Nutrition

栄養治療部では、患者さんの疾病治療を栄養面からサポートします



長谷川 俊史 部長
Director, Shunji Hasegawa

業務内容

- (1) 患者さんの病態栄養学的治療・指導に関すること。
- (2) 入院食業務に関すること。
- (3) 学生、研修生または実習生の教育・指導に関すること。
- (4) 地域住民に対する栄養教育に関すること。
- (5) 各種栄養療法の研究に関すること。
- (6) 委託業務の指導・監督に関すること。
- (7) 所掌業務の調査統計に関すること。
- (8) その他栄養治療に関すること。

目的と活動

「医食同源」、「薬食同源」という言葉は、病気の治療も普段の食事とともに人間の生命を養い健康を維持するためのもので、その源は同じです。おいしく食べることは薬を飲むのと同様に心身を健やかにしてくれるということを教えています。

患者さんにおいしい食事を提供することは栄養治療の第一歩です。

同時に、食事・栄養療法は生活習慣病や消化器疾患にとどまらず、ほとんどの疾病治療の一部であり、基本をなすものです。栄養治療部は患者さんの疾病治療を栄養面から考え、提案し、適切な栄養管理を実施し疾病治療をサポートします。また、患者さん以外にも院内外の医療関係者や住民への栄養教育を実施し、健康増進、疾病予防の啓発活動を行うことにより、病院機能の向上に貢献します。病院内のみにとどまらず、地域社会での健康増進、疾病予防のための啓発活動も大事な役割であると考えています。

栄養治療部は、平成16年7月1日に事務部から診療施設として活動開始となり、栄養治療部の理念「安全、安心な食事」「治療に貢献する食事」「おいしい食事」をモットーに、患者さんへの食事の提供を通しての栄養サポートに加え、入院、外来の栄養食事指導、さらに、入院患者さんへの個別栄養管理やNST (Nutrition Support Team) 活動を始め、各チーム活動(摂食嚥下・緩和ケア・血液内科・小児血液・糖尿病・呼吸器内科・心臓リハビリ・食道リハビリ・精神科神経科・脳神経外科等)の中で、患者さんにとってベストな栄養管理を提言しています。また、患者支援センター活動も行い、入院前のアレルギー食品・食形態の把握・治療食の内容確認や転院等の栄養情報提供書作成も行っています。



クリスマスイブの夕食



チームカンファレンス



摂食嚥下カンファレンス



InBodyによる栄養評価



調理終了時のまな板の殺菌



栄養指導



調乳



漢方診療部

Kampo Medicine

病気と病人の両方を治療する全人的医療
—それが漢方です



瀬川 誠 部長
Director. Makoto Segawa

診療内容

生活習慣病・老人性疾患・消化器疾患・その他の難治性疾患を中心に、漢方医学に基づいた全人的医療を実践しています。医学的にも悪くないと言われたが、様々な症状に悩んでいる方（例えば、めまい・耳鳴り・肩こり・手足の痺れ・頭痛・腹痛・便秘・下痢など）は漢方診療の良い適応です。また、更年期障害や老化防止を考慮した『食養生』の指導も行っています。

漢方診療の特徴

1. 保険の範囲内で専門医による漢方診療を受けることができます。
2. 一人一人にあわせたテーラー型の漢方処方ですので、各人の訴えにあわせた治療が可能です。
3. 漢方治療を通して、肥満や便秘等の体質改善を行っています。
4. 漢方薬の作用はマイルドで、自然な治癒が期待できます。
5. 漢方薬一剤で様々な症状への対応が可能です。

漢方診療の実際

診療方法は、まず「舌診」として舌の状態を診ます。舌の色・形・大きさ、舌の苔を観察して体の状態を判断します。次に「脈診」として手首の動脈を触り、脈の強さや性質からの状態を判断します。最後に「腹診」として下肢を進展し仰向けに寝ていただき、お腹の弾力性や抵抗部分を診ます。この腹診は、日本漢方独特な診察方法で、全ての方に行います。以上の診察結果を踏まえ漢方薬を選択します（受診したその日に診断し投薬治療を開始します）。また、診察上、西洋医学的なアプローチが必要と判断された場合には、採血・心電図・超音波検査・画像検査等を行います。場合によっては、専門科への紹介もさせていただきます。



放射線治療部

Therapeutic Radiology

低侵襲で高精度、
体に優しい放射線治療を提供します



田中 秀和 部長
Director. Hidekazu Tanaka

診療内容

照射技術の進歩に伴う治療成績の向上と有害事象の低減化を背景に、放射線治療を選択される患者さんは年々、増加しています。放射線治療が適応となる疾患の範囲は広く、また医学的な理由から手術が困難な患者さんであっても治療できることがほとんどです。超高齢化社会の到来とともに、その有用性は社会的にも注目されています。

当院の放射線治療

当院で施行している放射線治療は外部照射と小線源治療です。外部照射は、3台のリニアック（直線加速器）を用いています。通常の3次元照射に加えて、体幹部定位放射線治療（SBRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）や動体追跡照射などを施行しています。これらは、より特殊な治療として「高精度放射線治療」と呼ばれています。2015年には最先端の照射装置として、米国と日本で開発された動体追跡迎撃システムが世界で初めて当院で稼働し、2023年にはその最新版のシステムも稼働が開始しました。さらに呼吸で動く病変の位置を予測し追いかけて治療する追尾照射が可能な機器が稼働しました。小線源治療では、イリジウム（Ir-192）を用いた腔内照射を子宮癌などに対して施行しています。CTやMRIをもとに病変や周辺臓器の線量を評価する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。

私たちは各診療科と連携し、それぞれの患者さんに最も適した治療法を提供しています。

当院の治療機器



先進救急医療センター

Advanced Medical Emergency and Critical Care Center

速く、広く、高く
そしてより温かく



鶴田 良介 センター長
Director, Ryosuke Tsuruta

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~amec/index.html>

診療内容

山口大学医学部附属病院先進救急医療センター（通称、AMEC³：エーメックスリー）は、国立大学病院に初めて設置された高度救命救急センターです。ベッド数は20床です。運営スタッフは、専従医師14名（教授1、准教授1、講師1、助教6、診療助教5）、卒後臨床研修医約2～3名、看護師60数名、臨床工学技士1名からなり、さらに専門診療科の協力を得ながら、365日24時間体制で重症救急患者の診療を行っています。

研修医や医学生、救急救命士の教育はもとより、山口県および近隣の隣接地域住民の生命保持の最後の砦としての役割を果たし、大学病院の特徴を生かして高度で総合的・集学的な診断と治療を提供しています。当センターでは平成15年より医師・看護師を救急現場に派遣するドクターカー、平成23年よりドクターヘリの運航を開始し、プレホスピタル医療の拡充にも努力しています。

DMAT（災害派遣医療チーム）

DMATとは、地震、台風等の自然災害や、航空機、列車事故等の大規模な事故といった災害時に、迅速に救出・救助部門と合同して救急医療を行うための専門的な研修を受けた災害派遣治療チームです。



東日本大震災での活動状況

ドクターヘリ

ドクターヘリとは、救急医療専用のヘリコプターです。救急医療用機器等を装備しており、救急医療専門の医師と看護師を救急現場にいち早く運び、直ちに治療を開始し、高度な医療機関に患者を搬送することが可能です。平成23年1月からは基地病院としてドクターヘリの運航を開始しました。
特設サイト <http://drheli.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>



総合周産期母子医療センター

General Perinatal Medical Center

お母さんと赤ちゃんの未来のために



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

診療内容

総合周産期母子医療センターは、合併症妊娠、多胎妊娠、あるいは切迫早産などハイリスク妊娠に関する妊娠分娩管理と、生まれてくる早産児、低出生体重児、あるいは合併症を伴って出生されたお子さんに医療を提供する施設です。当センターは母体胎児集中治療室(MFICU) 6床と新生児集中治療室(NICU) 12床、新生児育成治療室(GCU) 12床からなります。産科医と新生児医療を専門とする小児科医、看護師・助産師だけでなく、眼科・小児外科・脳神経外科など幅広い専門医がチームを組み、高度な医療と看護を行っています。24時間体制で山口県全域及び隣接県からの母体あるいは新生児の受け入れをしており、遠隔地からはドクターヘリを利用した搬送を可能な限り行っております。また、2020年3月より新生児ドクターカー「すくすく号」が配備され、新生児搬送体制が充実し、これまで以上に安心安全な新生児搬送を提供することができるようになりました。

母性胎児部門

切迫流産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤、胎児発育不全、多胎妊娠などの産科合併症、あるいは妊娠前から持病(高血圧症、糖尿病、脳血管疾患、甲状腺疾患、膠原病、てんかんなど)をお持ちの妊婦さんなどの管理に対応しています。必要に応じて循環器内科や消化器内科、内分泌内科、脳神経外科など、他科と連携して診療を行っています。

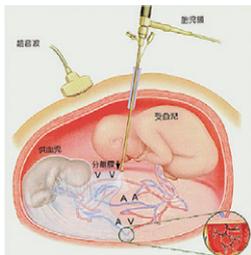
当院では超音波検査による胎児スクリーニング検査が可能で、胎児に異常を認める場合、必要に応じて染色体検査などを行うことで、正確な胎児診断と、ご両親への十分な病状説明に努めています。

当院ではさらに、胎児期に母体を通して処置を行うことで胎児あるいは新生児の予後を改善させる「胎児治療(胎児胸水に対する胎児胸腔羊水腔シャント術、双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術)」を積極的に行っています。

上述の疾患の増悪などにより妊娠中に入院が必要となった場合、母性胎児部門のMFICUと新生児部門のNICUが協力して24時間体制で診療に当たります。ただし、出生後に当院での治療が難しいと予想される場合は、他県の専門機関を紹介させていただくこともあります。



3D 胎児超音波



胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(胎児鏡シェーマ)

【出典：村越 毅「3. 多胎妊娠の診断と管理 MD 双胎に特徴的な合併症TTTSの治療」『多胎妊娠—妊娠・分娩・新生児管理のすべて』P162, 2015, 株式会社メジカルビュー社より許諾を得て転載】

新生児部門

当センター NICU では、超低出生体重児や超早産児に対する24時間体制での呼吸循環管理、重症呼吸障害に対する一酸化窒素吸入療法、血液濾過透析、低酸素性虚血性脳症に対する脳低体温療法などの高度な新生児医療を提供しています。

また、GCUでは、退院に向け体重増加などのフォローを行うお子さん、一般の開業産科医院で出生し呼吸管理や感染症の治療などが必要な新生児、あるいはLate pretermのお子さんなどにに対し、医療を提供しています。

医療の進歩に伴い、我が国の新生児医療における新生児死亡率の低さは世界一です。当施設においても、ただ救命を目指すだけでなく、後遺症のない生存「intact survival」を目指した医療を常時提供しております。



機能性、作業性に優れた病床配置



新生児ドクターカー「すくすく号」



重症新生児の診察

地域遠隔医療センター

Center for Telemedicine and Telehealth

地域における医療連携を
ICTによって支援しています



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/53.html>

石田 博 センター長
Director. Haku Ishida

診療内容

1. 情報システムを活用した効率的な地域医療連携の支援を行う。
2. 万全なセキュリティと個人情報保護のもと、安全・安心な診療情報の共有を継続する。

業務内容

本院は2009年に電子カルテへ全面的に移行し、診療情報の共有が容易な環境を整備しています。また、地域医療連携においても、インターネットのネットワーク網や情報技術の活用が進み、地域医療連携システムを用いて本院における処方、検査、画像情報、レポート情報などの診療情報の地域医療機関との共有を行ってまいりました。

同システムが諸般の事情により2022年度末で休止し、また、マイナンバーカードを用いたオンライン資格認証により特定健診等情報や診療・薬剤情報が参照可能となったこともあり、現在は、地域連携パスを用いた急性期から回復期・リハビリ施設等への橋渡し、行政と連携する主治医意見書の送付などが患者支援センターを介して継続されています。

一方、院内外において強固なセキュリティのもとでiPhone等により、院外から診療情報を参照できるシステムを導入しており、また、大規模災害時に備え遠隔地にデータを保管する国立大学病院共同のプロジェクトにも参加し、被災により万が一、本院の電子カルテや病院機能が停止状態になった場合でも、地域からも本院における患者さんの主要な診療情報が参照可能なシステムを有しています。

今後、広域での医療機関を結ぶ情報ネットワークの再構築やオンライン診療などにより、本院が地域の中核病院としてその役割を十分に果たせるように情報の面から支援し、他の医療機関と密な連携を図れる基盤作りを提案して参ります。



スマートフォンによる院内外からの診療情報アクセス

生活機能向上センター

Center for Improving Daily Activity

総合的な生活機能改善を目指します



中川 伸 センター長
Director. Shin Nakagawa

診療内容

当センターでは集団療法室ならびに防音室を有しており、これらを活用した診療の場を各診療科に提供しています。

現在集団療法室を使用し、耳鼻咽喉科の咽頭摘出後の患者さんが食道発声訓練の治療を行っています。

また産科婦人科では助産師を中心として出産前の妊婦への指導を行っています。

近々集団療法室を用い、児童を対象とした精神科神経科デイケアが開始される予定となっています。

このように患者さんが個人ではなく集団として訓練・教育・治療を受ける事により、よりよい治療効果が望める病態を対象としています。

また、防音室では厳重な防音環境を提供する事により、精神科神経科医師がプライバシーに十分配慮した医療面接を行い、また脳神経内科では防音環境下で聴性脳幹反応をはじめとした電気生理学的検査を行っています。



防音室

高次統合感覚器医療センター

Center for Higher Integrated Sensations

全国的にも類をみない、
統合的な感覚器医療を目指しています



木村 和博 センター長
Director. Kazuhiro Kimura

診療内容

主な診療領域

現在、眼科スタッフにより、小児眼科、斜視弱視訓練、視覚電気生理学検査、皮膚科スタッフにより、経表皮水分喪失量検査、皮膚紫外線感受性検査、サーモグラフィー、耳鼻科スタッフにより、補聴器外来、聴覚言語訓練、人工内耳リハビリ、空間識検査、平衡訓練などが曜日ごとに予約制で行われています。

特徴

高次統合感覚器医療センターでは、各科スタッフがそれぞれの診療を行うと同時に、スタッフの間の壁を取り払い、たとえば眼科の白内障手術前後の空間識機能を耳鼻咽喉科が評価するなど、全国的にも類をみない統合的な感覚器医療を行っています。

再生・細胞治療センター

Center for Regenerative and Cell Therapy

「再生医療等の安全性確保法」における細胞培養加工施設として認定を受けており、高い品質と安全性が担保された細胞加工を行います



山崎 隆弘 センター長
Director. Takahiro Yamasaki

診療内容

当センターは再生医療・細胞療法の専用施設として平成17年3月に設置されました。また平成26年からは細胞培養アイソレータを配置した加工施設の運用も行っています。

当センターは、再生医療安全性確保法の特定期間加工物製造施設として認可されており、安心安全な細胞加工物を製造・出荷することで、安全かつ効果的な再生医療・細胞療法の一翼が担えるよう運営しています。また大学病院として本学医学部研究室でPOC (Proof of Concept) が取得されたシーズに関しては、早期に臨床研究に移行できるよう、概要書に従った標準書および標準作業手順書の作成やコールドランを行うなどシームレスな支援も行っております。

なお当センターでは、日本再生医療学会の再生医療認定医や上級臨床培養士を含む職員が製造管理や品質管理に従事しており、さらに再生医療・細胞療法を担う高度な医療専門職を養成する全国初の「臨床培養士養成コース(大学院医学系研究科保健学専攻)」の実習施設としても活用されるなど、本センターは再生医療・細胞療法の研究教育に貢献して参ります。

再生医療・細胞療法に関する活動(2022~2023年度)

1. 医師主導治験「自己完結型肝硬変再生療法」に関する院内調製業務 (JRCT2063200014)
2. 臨床研究「再生医療を想定した他家細胞バンク構築に関する臨床研究」に関する製造業務 (UMIN000042301)
3. 相談および支援業務(標準作業手順書などの作成、コールドラン実施、特定認定再生医療等委員会への陪席など)



人工内耳リハビリ風景



細胞培養アイソレータ

超音波センター

Ultrasound Examination Center

最高の設備、最高の技術による
最高の診断を目指しています



山崎 隆弘 センター長
Director. Takahiro Yamasaki

診療内容

超音波センターは新中央診療棟 2F に位置し、腹部超音波検査室、心血管超音波検査室、超音波処置室の3室で構成されています。超音波検査は非侵襲的に多くの情報を得ることができるため、さまざまな分野で必要不可欠な検査法です。当センターでは、各診療科から依頼された循環器（心臓・血管）、腹部エコーを中心に外来、入院患者さんの超音波検査を行っています。現在センター内には、循環器・血管用超音波診断装置 8 台、腹部用超音波診断装置 6 台が稼働しています。検査は原則予約制で実施しており、待ち時間なく検査が実施できるよう努力しています。

- ・腹部超音波検査室
（月）－（金）の午前中は腹部エコー検査、午後は造影エコー検査を実施しています。
- ・心血管超音波検査室
（月）－（金）まで成人の心エコー検査、血管エコー検査を実施しています。断層心エコー、3次元心エコー検査、経食道心エコー検査、負荷心エコー検査を実施しています。
- ・超音波処置室
超音波ガイド下の生検・治療等を実施しています。センター化に伴い各検査室に最新の超音波診断装置を備え、各検査室に待合室を設けるなどハード面の拡充をはじめ、非侵襲的検査である超音波検査の特長を生かした、患者さんにやさしい検査・医療を提供できるよう心がけています。



待合室



エコー室

腫瘍センター

Oncology Center

がん治療向上に向けて、理想のがん診療を追求し、
がん統計成績の充実と
患者さんとともに歩む医療をめざします



ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shuyou/index.html>

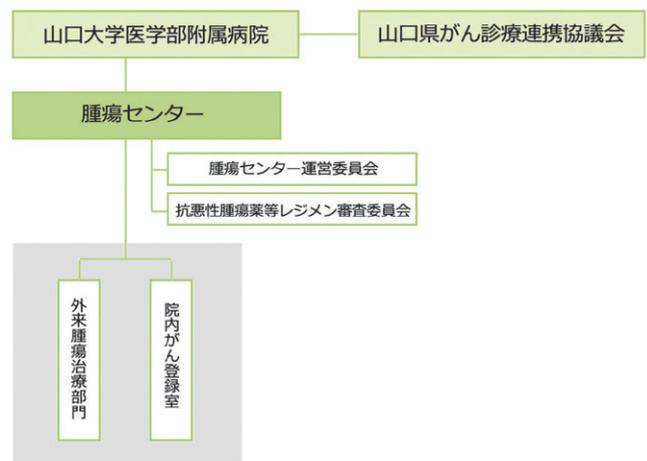
永野 浩昭 センター長
Director. Hiroaki Nagano

診療内容

現在、山口大学医学部附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療拠点病院に認可され、山口県全体のがん治療の中心的役割を担っていますが、その任務を果たすべく、平成 18 年に腫瘍を専門に診療・教育・研究する部門として腫瘍センターが設立されました。当センターは、外来腫瘍治療部門、院内がん登録室を統括し、最先端のがん治療を提供することを目的としています。

外来腫瘍治療部門は、患者さんが安心して快適な外来化学療法を受けていただけるように、きめ細かなサービスを提供しています。院内がん登録室は、がんに対する情報を蓄積し、これからのがん治療に役立てています。また、患者相談室（がん相談支援センター）では、患者・ご家族からの様々な相談に対して、専門の担当者が対応しています。なお、腫瘍センターではがん治療に関する教育セミナーや市民公開講座も定期的に開催しています。

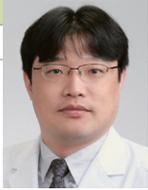
腫瘍センター組織図



肝疾患センター

Center for Liver Disease

県内における肝疾患診療の向上と均てん化の中心的な役割を果たすべく情報提供を行っています



ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kanzou/index.html>

高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

診療内容

平成 21 年 2 月に山口大学医学部附属病院は、肝疾患診療連携拠点病院に指定されました。肝疾患診療連携拠点病院とは、都道府県の中で肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たす医療機関であり、肝疾患センターは拠点病院事業を遂行するために立ち上げられた組織です。県内において良質かつ適切な医療を提供するためには、医療機関における肝炎を中心とする肝疾患診療の向上、均てん化を図ることが必要であり、肝疾患センターでは、かかりつけ医と専門医療機関との連携、肝疾患診療連携拠点病院と他の専門医療機関との連携、それぞれの役割に応じた診療体制の構築を進めています。

肝疾患センターでは、患者さん向けの「肝臓病教室」、一般市民対象の「市民公開講座」を開催しています。

また、肝疾患相談支援室を開設し、肝疾患に関する様々な相談に対応しています。

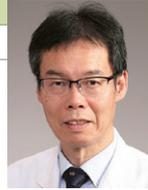
肝疾患センター組織図



血液浄化療法センター

Blood Purification Therapy Center

安全で確実な血液浄化療法を目指して



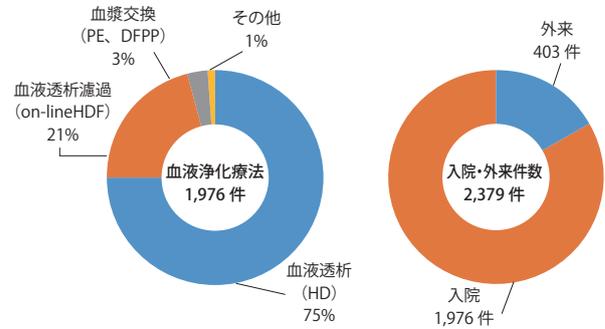
白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraiishi

診療内容

血液浄化療法センターは、中央診療部門として手術や高度先進医療などを受ける目的で他科に入院された血液透析患者さんに対する当院入院中の血液透析や入院中に急性腎不全を発症した患者さんに対する血液透析、血液吸着、血漿交換を行っています。また慢性腎臓病（CKD）末期の患者さんに対する透析導入も行っています。

外来透析も行っており、おもに腹膜透析を併用したハイブリッド療法の患者さんを中心に一般の透析も外来で行っています。詳細は診療実績をご参照ください。

令和 4 年度の診療実績



透析室

緩和ケアセンター

Palliative Care Center

がん患者さんの QOL (生活の質) の向上のために、あらゆる苦痛の緩和に向け、専門的な介入を行います



ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kanwa-hp/>

松本 美志也 センター長
Director. Mishiya Matsumoto

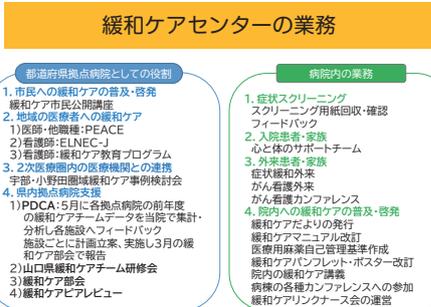
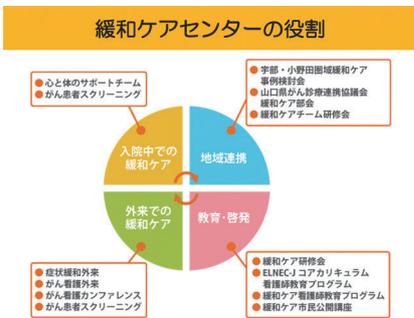
業務内容

緩和ケアセンターは入院・外来を問わずがんと診断された患者さんに質の高い緩和ケアを提供する活動をおこなっています。

当センターの心と体のサポートチームには身体症状担当医師・精神症状担当医師・がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・公認心理師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属し、病気の診断時より患者さんを身体と精神の両面から専門的にサポートしています。

また、がん診療に携わる全ての医療者が基本的な緩和ケアを提供できるように、院内外の教育・啓発活動をおこなっています。

さらに近隣の医療機関と合同でカンファレンスや勉強会をおこない、患者さんの転院や在宅療養への移行の際に切れ目のないケアが提供できるように連携を深めています。



緩和ケア研修会

アレルギーセンター

Allergy Center

アレルギー疾患患者が安心して生活できる地域社会の構築



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

業務内容

令和2年4月1日に、当院は山口県のアレルギー疾患医療拠点病院に指定されました。アレルギー疾患を有する県民がその居住地域に関わらず、適切な診断と治療を受けることができるよう、県内の診療ネットワークにおいて中心的役割を果たすことを目指します。

アレルギーセンターは、呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科のアレルギーを専門とする医師や看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士等で構成され、難治症例や複数のアレルギー疾患を合併する症例の集学的診断・治療ならびに専門職による患者支援を提供する体制を強化するとともに、将来のアレルギー診療を担う人材の育成にも取り組んでまいります。

地域の医療機関からご紹介いただいた難治症例を部門横断的に診療しており、必要に応じて合同カンファレンスにて症例検討を行っています。また患者さん、ご家族、保育・学校などの関係機関からのアレルギーに関する心配事や悩み事について、メールで相談に応じています。

アレルギーセンターが担う三本の柱



CONTROL DIVISION, DEPARTMENT FOR COLLABORATIVE CLINICAL DIVISIONS

PHARMACY DEPARTMENT AND DIVISION OF NURSING, etc.

企画・管理部門、診療科連携部門
薬剤部、看護部等

企画・管理部門		診療科連携部門	
医療情報部	52	生殖医療センター	60
臨床研究センター	53	血管内治療 (IVR) ・ 放射線診断治療センター	61
医療材料物流センター	54	こども医療センター	61
ME 機器管理センター	54	低侵襲手術センター	62
医療の質・安全管理部	55	IBD センター (炎症性腸疾患センター)	62
医療経営センター	55	高齢者がん治療センター	63
患者支援センター	56	臨床心理センター	63
診療録センター	57		
感染制御部	57		
医療人育成センター	58	薬剤部	64
難病対策センター	58	看護部	65
広報戦略センター	59		
臨床教育センター	59		
QIセンター	60		

医療情報部

Medical Informatics and Decision Sciences

医療情報システムで医療の安全と質、そして先進医療への取り組みを支えています



石田 博 部長
Director, Haku Ishida

ホームページ <http://mids.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

業務内容

情報技術(ICT)の進歩を取り込み、大学病院における高度先進医療、効率的で安全・安心な質の高い医療の提供を情報の面から支援しています。また、蓄積された情報を診療、および、研究・教育へ十分活用できるように、電子カルテシステムの継続的な改善と整備、ならびに安定稼働に向けた運用管理を担っています。

稼働中の電子カルテシステム

当部では、院内の診療科および診療部門における診療や種々の業務の情報化・ネットワーク化を進め、日常診療の中で発生する様々な情報を電子カルテ上で共有可能とすることで、大学病院として求められる高度先進医療、および集学的な専門性の高い診療の支援を行っています。

中核となる電子カルテシステムは2009年に導入され全面的な診療記録の電子化とともに画像情報の電子化と合わせ、全ての診療情報が電子カルテ上で院内のどこからでも参照可能です。また、診療文書の作成支援機能により様々なカンファレンス支援とその記録の電子化や外来での問診などの電子化を進め、入院診療計画書など作成が必須な文書の記載状況などが把握できる管理機能も備えています。また、これらの診療情報は、サイバーインシデントへの高度な備えを有する堅牢なセキュリティ環境のもと、許可されたスマートフォンなどのモバイルデバイスやノートPCなどを用いた院外からの安全なアクセスも可能として、宅直時などの情報参照も可能とするなどのシステム拡張も継続しています。

診療支援機能

電子化された診療情報を用いた診療支援機能を紹介しますと、まず、継続的な診療を支援するために疾患別に該当患者の治療やその経過が一画面で参照・把握できる疾患マネージメントシートを独自に作成して活用しています。また、医療安全への支援として、従来の各種のオーダ時のエラーチェック機能やベッドサイドでの輸血や注射実施時の認証機能などに加えて画像レポートの見逃し防止機能の追加など支援可能な課題に継続的に取り組んでいます。さらに、患者さんへの迅速な対応が必要な状況が発生した際の通知や診療における医師の失念や思い込みなどによる「うっかり」を予防するための各種のアラートやリマインダーを発報する臨床意思決定支援機能もレベルアップを図っており、従来の検査値異常等への対応のみならず、経時的な情報に対する判断ロジックに加えて、AIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)において開発された各種のAI判別器による予測や判別機能と連携可能なシステム基盤を持つまでに発展して来ました。

診療情報の活用

日常診療によって蓄積された情報の研究や教育への利用は大学病院として重要です。個人情報保護を十分に配慮し、十分なセキュリティのもと情報漏洩を起こすことなくデータの利活用ができる基盤整備とともに、目的に沿った各種の診療情報のより柔軟な抽出を行えるように機能面の向上も進めています。

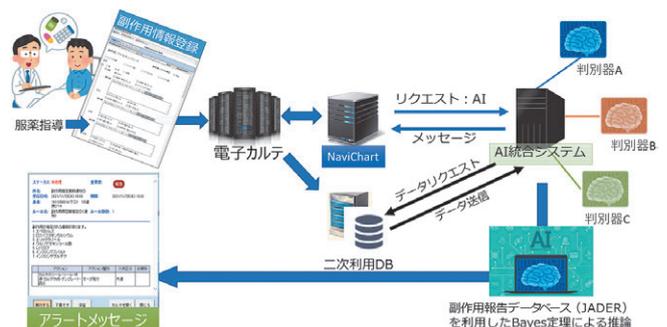
一方で、これらの電子化情報を広く活用するためには、活用しやすい診療情報として蓄積される必要がありますので、構造化された書式による情報登録に加えて、他施設との連携にも備えた用語などの情報の標準化が不可欠であり、病名や検査、薬剤コードなどの標準化対応や退院時サマリのような標準規格に基づいた書式も取り入れるなど今後の情報活用を見据えた整備を進めているところです。

以上、今後も情報技術の進歩を着実に取り入れ、大学病院としての高度で質および効率性の高い安全な医療の提供を情報面から支援し、診療情報の有効活用を促進できる情報システムの更なる機能充実を図って参ります。

図1：疾患マネージメントシート例：糖尿病



図2：CDSS例：副作用報告時の被疑薬推定アラート



臨床研究センター

Center for Clinical Research

「未来の医療を育てる手助け」それが私たちの仕事です



下村 裕 センター長
Director. Yutaka Shimomura

ホームページ <http://ccr.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

業務内容

臨床試験等（治験、特定臨床研究、人を対象とする生命科学・医学系研究、再生医療）の科学性、倫理性、質の担保を目的とし、医師、CRC (Clinical Research Coordinator)、データマネージャー、臨床開発業務経験者、専任の事務職員が、トータルサポートを行っています。また、臨床試験等に関する普及活動及び情報発信も行っております。

臨床研究推進部門

臨床研究の支援に係る業務を行っています。研究者からの事前相談や、申請書類の事前レビュー、研究計画書等の作成支援、研究デザインに関する相談等、多岐にわたって支援を行っています。

治験推進部門

治験（企業主導、医師主導治験）の支援に係る業務を行っています。治験依頼者（医師主導治験含む）からの事前相談、申請書類の作成支援等のサポートを行っております。また、CRC は臨床試験等を円滑かつ適切に進めるための支援として、同意説明補助、治験スケジュール管理、症例報告書作成補助、治験薬管理等を行っています。

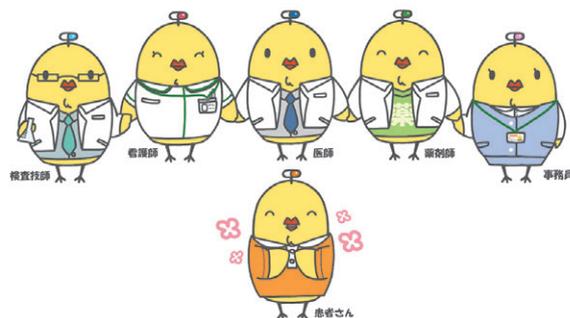
データサイエンス部門

統計解析、データマネジメント、モニタリングの支援に係る業務を行っています。その他、研究者からの研究デザインや解析方法などに関する統計相談やモニタリングに関する相談、統計関連のセミナー開催を通して、研究者の支援も行っています。

各種審査委員会

臨床試験等の申請窓口・契約手続き業務ならびに、以下の委員会の事務局運営を行っています。

- 1) 治験審査委員会 (IRB)
審査対象：治験等
- 2) 人医学研究等倫理審査委員会 (REC)
審査対象：人を対象とする生命科学・医学系研究等
- 3) 国立大学法人山口大学臨床研究審査委員会 (CRB)
審査対象：臨床研究法対象研究
- 4) 山口大学特定認定再生医療等委員会、山口大学認定再生医療等委員会 (CCRM)
審査対象：再生医療等の提供計画
(特定認定再生医療等委員会:1, 2 種、認定再生医療等委員会:3 種)
- 5) 山口大学医学部附属病院利益相反審査委員会
(COI: Conflict of Interest)
審査対象：以下の研究等の利益相反・責務相反に係る審査
 - ・臨床研究法の対象となる研究
 - ・再生医療等の安全性確保等に関する法律の対象となる再生医療等
 - ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の対象となる研究
 - ・医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令の対象となる研究



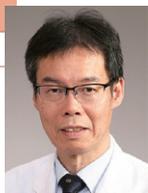
■オリジナルキャラクター「UBEたまちゃん」です。

ひよこが立派な鶏になりたくさんの卵を産むように、新しい薬を世に生み出す治験や研究者が実施する数多くの人医学系研究が医療として還元されていくことを願って、そしてこれら治験・臨床研究をより多くの方々知って頂けるようにと、願いをこめて誕生しました。

医療材料物流センター

Supply and Infection Control Center

病院診療の安心・安全を支えています



白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraiishi

業務内容

医療材料物流センターでは、山口大学医学部附属病院での安全で円滑な医療の提供のために、外来・病棟・手術部等、病院内で使用する再生医療器材の洗浄滅菌処理や保管等について、トレーサビリティシステムや立体倉庫を活用し中央管理しています。

また、感染制御部、医療の質・安全管理部等と協力して、リスク管理における安全な医療材料の選定、院内感染予防に関する情報提供・教育等への取り組み、地域医療施設関係者に対する感染予防、医療材料等に関する情報発信など、医療及び、看護実践を多方面から支える役割を担っています。



立体倉庫



トレーサビリティシステムによる再生器材管理



滅菌作業

ME機器管理センター

Center for Medical Electronics Maintenance

モットーは“医学と工学の融合領域における最先端医療のサポート”



永野 浩昭 センター長
Director. Hiroaki Nagano

業務内容

ME機器は医療の高度化、専門化に伴って、院内のあらゆる部門で利用されています。ME機器管理センターは院内における医療機器の安全かつ適正な運用・管理を目指して、平成17年4月に開設されました。薬剤投与に用いるポンプ等を当センターで一元管理するサービスを行っています。また平成17年7月、院内に導入したAED（半自動除細動装置）と既設のDC（除細動装置）と合わせ、全ての階で除細動が可能となっておりますが、当センターはこれらの機器の維持もしています。

その他、臨床場において“医学と工学の融合領域における最先端医療のサポート”をモットーとし、心臓外科手術の際の人工心肺装置や血液透析等を行う血液浄化装置、救急・集中治療室では人工呼吸器、心電図モニタ等の生命維持装置の操作、保守を行っています。その他、循環器内科支援、高気圧酸素治療等にも関わっています。



医療機器管理システム

医療の質・安全管理部

Division of Medical Quality and Safety Management

安全文化の構築、安全で高度な医療の提供、医療安全意識の高いスタッフの育成に努めています



高崎 彰久 部長
Director. Akihisa Takasaki

業務内容

特定機能病院として高度で安全な医療の提供を行うとともに、患者さんの立場を尊重し、患者さんが安心して安全な医療を受けられる環境を整えるため努力しています。

医療安全管理の目標の設定

年間の目標を設定し、医療関係者に広報するとともに、日々医療安全管理の啓発を行います。また、目標が達成できるように方策を示します。

事故防止のためのフィードバック

各部署から提出されたインシデントレポートを調査・分析し、再発防止策の検討・提言をして、各リスクマネージャーにフィードバックするとともに医療の質の向上を図ります。

医療安全講習会

年2回程度の講習会並びに複数回のビデオ講習会を行っています。また、アンケートを活用し、実践に役立てるように講習会の内容を検討しています。

医療事故への対応

事故発生時においては、速やかに患者さん及びご家族への対応を行うと同時に事故原因について究明をし、適切な再発防止策を提示します。



医療安全講習会の様子

医療経営センター

Center for Medical Management

医療経営情報をもとに健全な病院運営のため、様々な対策を提言しています



木村 和博 センター長
Director. Kazuhiro Kimura

業務内容

病院経営戦略に必要な事項を検討し、病院戦略会議に提案することを目的に、平成17年8月1日から次の業務を行っています。

- (1) 基本方針案作成に関すること
- (2) 情報（診療情報・経営情報等）の収集・分析・評価及び活用に関すること
- (3) 収支改善、合理化策の立案に関すること
- (4) その他医療経営に関すること

また、平成31年4月から、センターの職員を一新し、より現場の声を反映するように努め、適切な時期に、適切な提案を病院戦略会議に挙げられるようにしています。



オンラインミーティングの様子



ミーティングの様子

患者支援センター

Patient Support Center

外来、入院時、退院時、退院後と切れ目なく患者さんの支援を行います
病院と地域をつなぐ架け橋を目指します



長谷川 俊史 センター長
Director, Shunji Hasegawa

業務内容

本センターは、患者さんやそのご家族が共に安心して医療を受けるための相談窓口であり、また、地域の医療機関等と連携して、患者さんやご家族の意向に沿った医療、生活等ができるよう切れ目のない体制で支援しています。

各種相談の対応

病気のこと、医療費のことをはじめ、医療福祉相談、患者申出療養相談、セカンドオピニオンなど様々な相談に応じています。

また、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として、がん相談や肝疾患相談にも対応しています。

入院前支援の実施

入院前説明室では、入院が決定した患者さんが安心して入院生活を送れるよう、入院前から看護師をはじめ、事務職員、薬剤師、管理栄養士など多分野の専門職が関わり、事前に患者さんの状態を把握して支援いたします。また、病棟看護師と連携をとり、患者さん一人ひとりに合った入院治療および看護が提供できるよう努めています。

地域の医療機関などと連携してサポート

入院前から退院に向けて介護保険などの制度を活用し、地域の開業医の先生や訪問看護ステーション、地域包括支援センターや行政の方々など、様々な関係機関と連携します。退院後も安心して生活していただけるようにしています。



患者支援センター
紹介動画



がん患者さんへの
ケアぼうしの提供



患者相談室



情報収集コーナー

診療録センター

Library Center for Clinical Documents

安心安全の医療を守るためのデータ保管



坂井 孝司 センター長
Director. Takashi Sakai

業務内容

診療録センターは、医療の充実と教育研究に資するため、疾病別検索・抽出が容易にでき、かつ診療・教育・研究及び診療録情報開示等、必要に応じた情報提供の迅速化を図るため、診療録の集中管理を実施しています。

主な業務

- (1) スキャナ取込
- (2) 診療録の搬送、保管、入庫、出庫
- (3) 画像 CD・DVD の保管
- (4) 診断書等作成支援
- (5) 診療録の点検、閲覧、貸出

診療録管理室

- ・診療録（紙）の保管、管理（閲覧、貸出等）
- ・診療録等のスキャン取込
- ・診断書等作成支援
- ・画像 CD・DVD の保管

診療録情報室

- ・診療録等の量約、質的点検
- ・疾病統計業務



スタッフ

感染制御部

Division of Infection Control Management

院内感染のない、より良質な医療の実現を目指しています



松永 和人 部長
Director. Kazuto Matsunaga

業務内容

私達は院内の多様な感染症を制御し医療の質を確保することを目標に活動しています。最大の目標は院内感染の防止と MRSA 等の耐性菌（多数の抗菌薬に対して抵抗性を獲得した菌）増加の抑制です。感染制御活動が各種治療の成功率の向上、合併症の予防、治療期間（入院期間）の短縮に貢献することは、多くの臨床研究によって明らかにされています。

具体的な活動の例としては、毎週各診療科を直接視察に回り、感染対策上必要な器具が整っているか、また現場スタッフが感染対策を十分に意識し適切に行動できているかを評価し、その都度改善を加えています。また耐性菌増加の有無を随時評価し、耐性菌抑制に向けての抗菌薬適正使用などの対策を実施しています。流行性のウイルス感染症等が院内で危機的な状況を引き起こすことがないように監視するのも私たちの仕事です。

近年、抗菌薬が効かない薬剤耐性（AMR）を持つ細菌が世界中で増加しています。不適切な抗菌薬使用が要因の1つとされ、適正な使用を推進することが AMR 対策にとって重要な取り組みとなります。当院では感染制御部内に専従の薬剤師を中心とした抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を組織し、適切な抗菌薬を必要な場合に限り、適切な量と期間で使用するための管理・支援体制を整えています。

院内の感染の諸問題に対しては、各診療科と密接に連携して出来る限り迅速な対応に努めていますが、感染制御をより有効なものとするためには、患者さんのご理解とご協力が必要不可欠です。手洗いや手袋使用等をはじめ、感染対策上必須の事項については十分にご理解いただけるように努めていますが、ご不明な点はいつでも各診療科の担当者にお尋ねください。



ICT ラウンド風景

医療人育成センター

Career Development Center

高度職業人としてのキャリア形成の支援のために

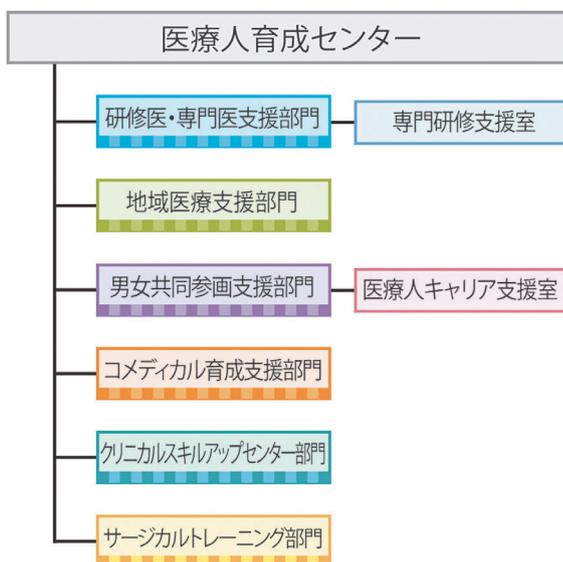


ホームページ <http://www.cdc.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

木村 和博 センター長
Director. Kazuhiro Kimura

業務内容

医療人育成センターでは研修医や専攻医等の医師の確保及びキャリア形成の支援、医療の高度化・複雑化に伴う高い専門性を備えた多種多様な医療スタッフの育成、地域医療との連携の推進、育児支援等の職場環境の整備などの諸課題に取り組み、併せて本院に勤務する医師及びコメディカルスタッフ（事務職員を含む）へのキャリア形成の支援に寄与することを目的としています。センターには、研修医・専門医支援部門、地域医療支援部門、男女共同参画支援部門、コメディカル育成支援部門、クリニカルスキルアップセンター部門、サージカルトレーニング部門の6部門があり、全医療人の育成・支援に努めています。



ICLS

難病対策センター

Center for Intractable Disorders

難病医療に関する相談や啓発、ネットワークの充実を目指します



ホームページ <http://www.nanbyou.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

中森 雅之 センター長
Director. Masayuki Nakamori

業務内容

難病対策センターは難病患者さんやご家族（介護者）、医療従事者に対して、難病に関する相談支援や情報提供、入院先の確保に係る連絡調整などを行い、難病診療連携拠点病院、難病医療協力病院等の医療機関や難病相談支援センター、保健所等の相談機関の連携を強化することにより、適切な医療・相談支援体制を構築することを主な目的に平成27年9月に運用を開始しています。当センターは外来棟3階にあり、難病診療連携コーディネーター2名が常駐して相談を中心とした業務に従事しており、電話、来所、メールによる相談を受け付けています。また、難病に関わる難病医療従事者を対象とした研修会を開催し、難病医療従事者の質の向上を図ります。



スタッフ会議

広報戦略センター

Public Relations Strategy Center

病院の魅力を分かりやすく発信します



長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

業務内容

広報戦略センターは地域の患者さんに診療内容をわかりやすく伝え、医学生や研修医に山口大学医学部附属病院の魅力を発信していくことを目的に設置されました。本院は県内唯一の特定機能病院として、かつ地域医療を支えるため、診療・教育・研究に力を入れており、本院の取り組みについてわかりやすく情報発信していきたいと考えています。また、より多くの研修医を育成していきたいと考えており、魅力ある研修制度の周知も重要な広報戦略と位置付けています。

主な取組み

- 山口大学医学部附属病院ホームページの運営
- 患者さん向けに診療をわかりやすく紹介した「知っちょる? 山大病院」の映像・冊子版の制作
- 病院の紹介や診療等についての動画制作
および YouTube を活用した動画配信
- Facebook 等を活用した情報発信など



YouTube



Facebook



知っちょる? 山大病院



山大病院公式 Facebook ページ



附属病院ホームページ

臨床教育センター

Center for Clinical Education

山口大学医学部附属病院の
卒後臨床研修が変わる！



ホームページ <http://cec.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

松永 和人 センター長
Director. Kazuto Matsunaga

業務内容

臨床教育センターは、卒後臨床研修プログラムの改善充実を支援し、研修医および学生等の指導教育を行い、幅広い診療能力を備えた医師の人材育成を行うことを目的とし、平成 30 年 1 月 1 日に宇部興産中央病院内に山口大学医学部附属病院のサテライト教育施設として開設しました。臨床教育センターでは以下の業務を行います。

- (1) 研修医の教育研修に関すること
- (2) 学生の臨床教育に関すること
- (3) 卒後臨床研修プログラムの改善充実の支援に関すること
- (4) その他センターが必要と認めたこと

臨床教育センターの特徴

- (1) 1・2 次救急診療能力の習得
- (2) 教育熱心な大学教員による指導
- (3) common disease の入院管理
- (4) 豊富な症例・幅広い診療分野を経験
- (5) 大学と同様に整備された学習環境
- (6) 研修医向けセミナーやカンファレンス

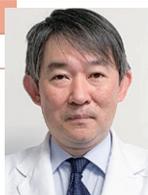


臨床教育センターでの学生実習発表

QIセンター

Quality Indicator Center

Q I を通じた病院機能、
医療の質の向上に取り組んでいます



坂井 孝司 センター長
Director. Takashi Sakai

業務内容

Q I センターでは、病院機能評価指標・診療の質指標等の臨床指標 (Quality Indicator) を通じて本院の機能及び医療の質の改善を支援し、関連する組織、委員会と整合性を図りながら有機的に連携し院内の諸課題を解決するため、平成 31 年 4 月 1 日から次の業務を行っています。

- (1) Q I に関する情報の収集、整理及び発信に関すること
- (2) Q I を通じた病院機能及び医療の質の改善に関すること
- (3) Q I と関連する活動に対する定期的な監査の実施に関すること
- (4) その他医療の質の向上に関すること

※Q I とは、病院の機能や診療、サービス等の“質”について、様々な指標を用いて客観的な数値で示したものです。指標を分析し改善を行うことで医療の質の向上を図るとともに、患者さんにとってわかりやすい医療情報を提供することを目的としています。



院内ケアプロセス調査

※院内ケアプロセス調査では、対象の症例の外来受診から入院の一連のプロセスを多職種で評価します。診療録等の適切な記録や医療の質向上を目指すことを目的に、月に一度対面形式で多職種で構成された院内サーベイヤーが各診療科の電子カルテ等を調査します。

生殖医療センター

Center for Reproductive Medicine

不妊症のカップルを支援します



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v01.html>

杉野 法広 センター長
Director. Norihiro Sugino

業務内容

生殖医療センターは産科婦人科と泌尿器科が連携し、男性、女性それぞれの不妊原因に応じた治療を行うことを目的に設置されました。

外来で行える一般不妊治療から、難治性不妊症患者さんに対して行う体外受精、顕微授精、胚凍結保存・融解胚移植、精巣内精子採取、顕微鏡下精巣内精子採取術といった高度な生殖補助医療技術 (ART) などを包括的に実施しています。

産科婦人科での研究結果では、卵の質を向上させる目的でメラトニンを投与し、良好な成績を得ています。泌尿器科では精巣内で精子を作れない非閉塞性無精子症に対し、2001年に西日本で初めて顕微鏡下精巣内精子採取術 (micro-TESE) を施行しました。ほかにも、精索静脈瘤や閉塞性無精子症などにおいて、本学発の新規術式の報告を数多く行っています。

カップルが同じ病院でともに受診できる点は当センターの大きな特徴です。今後も産科婦人科と泌尿器科の連携を一層密にし、患者さんにとって最善の治療を提供してまいります。



最新の個別培養機器タイムラプスインキュベーターを導入しました

血管内治療(IVR)・放射線診断治療センター

Center for Interventional Radiology, Diagnostic Radiology and Radiotherapy

患者さんの体にやさしい治療と診断を追及しています



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v02.html>

伊東 克能 センター長
Director. Katsuyoshi Ito

業務内容

当センターは消化器内科、循環器内科、脳神経外科、第一外科、放射線科など、IVRを行う複数の診療科が連携し、さらなる技術の向上を目指しています。IVRは対象疾患に応じて各診療科に対応していますが、中でも第一外科が行う腹部大動脈瘤に対するステントグラフト手術については、当院は国内でも代表的な施設として全国から多くの見学者が来院されます。脳血管、心血管、大動脈、末梢血管の疾患はお互いに合併していることも多いため、包括的に診断し、より安全で効率的な治療を行っていきます。

放射線診断においては、AI技術が搭載された次世代の最新鋭CT、MRI装置が導入されており、高精細・高解像画像により、高精度の画像診断を提供しています。

放射線治療についてはほぼすべての悪性腫瘍に対応しており、呼吸性移動の大きな腫瘍に対しては動体追跡照射(迎撃)を行うなど、さまざまな対策が可能であることも特色のひとつです。

2023年4月には核医学(RI)検査を再稼働し、RI病床も1床から2床に増床しました。これにより、今まで以上に効率よくRI治療が実施できます。また、神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法も開始し、当院は山口県内で行っている唯一の施設です。

なお、2024年度には最新のPET-CT装置の導入を予定しています。PET検査は早期胃がんを除く悪性腫瘍、てんかん、心疾患、大型血管炎が対象となります。今後も最先端の医療技術を駆使して患者さんに最適な治療を提供していきます。



こども医療センター

Children's Medical Center

小児科医療の全てを担う



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v03.html>

長谷川 俊史 センター長
Director. Shunji Hasegawa

業務内容

こども医療センターは新生児・乳児期から学童期を超えて継続的に、患児が安心して医療を受けられることを目的に設置されました。

小児科はアレルギー・免疫・リウマチ性疾患・消化器疾患・血液・腫瘍疾患・新生児疾患など、さまざまな疾患があるのが特徴です。当センターでは小児科のみならず、外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、歯科口腔外科など専門分野が異なる各科と連携し、集学的な治療を行っています。



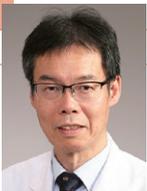
各診療科の連携図



低侵襲手術センター

Center for Minimally Invasive Surgery

山口県内初のダヴィンチ2台体制で手術にあたります



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v04.html>

白石 晃司 センター長
Director. Koji Shiraiishi

業務内容

本院は2012年に全国の大学病院に先駆けて内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチS」を導入し、前立腺がん手術を中心にロボット支援下手術を行ってまいりました。その後、同手術は泌尿器科での適応が拡大し、外科や婦人科領域の疾患へも保険が適用されるようになりました。

2023年4月、「ダヴィンチXi」を導入し、山口県内では初となるダヴィンチ2台体制で、現在、多くの診療科において毎日手術を行っています。

このたび、ロボット支援下手術をはじめ、腹腔鏡・胸腔鏡下手術などの低侵襲手術の技術向上、安全性の追求および教育・研究を目的とし、低侵襲手術センター（Center for Minimally Invasive Surgery）を設置しました。

ロボット・鏡視下手術を安全に遂行するには、外科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士、事務職員など、すべての医療スタッフの力を必要とします。低侵襲手術センターは、大学病院特有の診療科ごとの組織構造から脱却し、その壁を越えた横断的なセンターとして、知識や技術の共有とチーム医療を推進してまいります。そして本院で手術を受けられる患者さんにとって理想的な手術方法を常に探究し、満足していただける安心・安全な外科医療を提供してまいります。



ダヴィンチ



IBD センター

(炎症性腸疾患センター)

IBD Center

患者さんのライフイベントを病気で断念することがないように



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v05.html>

高見 太郎 センター長
Director. Taro Takami

業務内容

潰瘍性大腸炎、クローン病に代表されるIBD（炎症性腸疾患）全般を診療する目的で、令和5年4月にIBDセンター（炎症性腸疾患センター）が設置されました。これにより、内科・外科・小児科・放射線科等の診療科の枠を超えて、綿密な治療計画の立案、治療が可能となりました。

また、センターでは放射線部、看護部、薬剤部、栄養治療部、検査部、超音波センター、ME危機管理センターも含まれており、多職種が連携して取り組むことにより、検査・治療や薬剤、食事内容などについて、トータル的にサポートします。指定難病申請などの公的支援については患者支援センターにてご相談が可能です。

当院におけるCTを使用した病態評価法は全国的にも評価をされています。今後もこのデータを蓄積しながら、患者さんの疾患の改善およびQOLの向上を目指してまいります。



IBD センターのロゴ



高齢者がん治療センター

Center of Cancer Care for Elderly Patients

年齢を理由にがん治療を断りません



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v06.html>

永野 浩昭 センター長
Director. Hiroaki Nagano

業務内容

75歳以上の高齢ながん患者さんを対象に、手術、化学療法、放射線療法などを効果的に組み合わせた集学的治療を行うことを目的とし、令和5年6月に高齢者がん治療センターが設置されました。

当センターでは、高齢者総合的機能評価 (Comprehensive Geriatric Assessment : CGA) 等により、高齢患者の認知機能、生活機能障害 (老年症候群)、精神および社会状況などを併存疾患とともに包括的に評価します。そして、そこで抽出された問題点に対し、必要に応じて多診療科・部門による二次評価・対応のマネジメントを行っています。

高齢者は一般的に身体機能・臓器機能・認知機能の低下、依存症による多剤内服など、非高齢者とは異なった背景を抱えています。生存期間のみならず、治療後の生活に必要な身体および精神機能を維持することや、QOLを損なわないことを重視しながら、多職種・他診療科と連携強化を図ってまいります。

連携診療科

第二外科、腫瘍センター、婦人科、放射線科、消化器内科、泌尿器科、第一外科、放射線治療科、呼吸器・感染症科

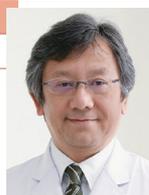


市民公開講座の様子

臨床心理センター

Clinical Psychology Center

患者さんやご家族への心理支援はもちろん、院内スタッフの患者さん支援を支えます



ホームページ <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/v07.html>

中川 伸 センター長
Director. Shin Nakagawa

業務内容

本院で雇用している心理職 (臨床心理士、公認心理師) は精神科神経科をはじめ、緩和ケアセンターや小児科に配置され、各々の業務に従事しています。2023年8月1日に設置された当センターでは、本院の心理職を組織化し、臨床心理に関する業務を集約することで患者さんやそのご家族に対する円滑な心理支援の実現を目指しています。

また、2017年に公認心理師法が施行され、国家資格の心理職である公認心理師が誕生しました。それに伴い、近年、公認心理師の養成を目的とした教育課程を新設する大学等が増えております。これらの大学等にとっては実習先の確保が課題となっているところですが、当センターではそうした公認心理師や臨床心理士を養成する実習も実施しています。

さらに、患者さんやそのご家族をさまざまな面から支える院内スタッフの相談にも対応し、スタッフのよりスムーズな患者さん支援を間接的にサポートしてまいります。



薬剤部

Pharmacy Department

適正な薬物治療に貢献 「薬のリスクから患者を守る!!」



北原 隆志 部長
Director. Takashi Kitahara

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yakuzai/>

業務内容

“薬のリスクから患者を守る!!”を合言葉に、医師、看護師をはじめとする医療スタッフと連携を図りながら、安心で安全な、そして、適正な薬物治療を患者に提供することに貢献します。

調剤（内服薬、外用薬、注射薬）

医師の処方に対して、投与量、投与方法、相互作用の可能性などの確認を行い、適正使用のための情報を添えて、治療薬剤を患者に交付します。本院では、情報技術を積極的に活用し、基本的な処方チェックなど業務の自動化を積極的に進めています。

製剤

製剤技術の進歩と製剤環境の規制強化に伴い、院内製剤の製造は減少し、抗がん剤の混合調製業務が中心になっています。本院は土日祝日も薬剤部で調製を行っているため、薬剤師全員が抗がん剤調製スキルを身に付けて対応しています。

薬品管理（購入、保管、規制医薬品）

院内で使用される医薬品の購入管理、保管管理、そして、麻薬や毒薬など規制医薬品の管理を行っています。

病棟薬剤業務

医療の機能分化に伴い、本院では、全病棟において薬剤師が業務を行っています。患者に対する薬学的ケアだけでなく、医師や看護師など薬物治療に関係する専門家と協働で、適正な薬物治療を患者に提供できるよう業務を展開しています。特に、副作用モニタリングを重要視し、患者観察を通じた副作用シグナル検出と健康被害の最小化に取り組んでいます。

医薬品情報管理

院内で使用されている医薬品について、有効性と安全性に関する情報を収集し、医師や看護師などに情報提供すると同時に、患者で生じた副作用イベントの収集蓄積を行っています。また、病棟薬剤業務の情報基盤でもあります。

臨床研究支援

研究機関である大学病院では、新薬開発のための臨床試験から医師が企画する臨床研究が広く行われています。これらの臨床研究・臨床試験のうち医薬品を用いて行われるものに対して、試験薬の管理やCRC業務を行っています。

その他

その他として、血中薬物濃度値に基づく処方作成支援、薬学生の臨床実習、臨床的疑問に対する研究などを行っています。



抗がん剤の無菌調製



服薬指導風景

看護部

Division of Nursing

あたたかい看護の探求と実践



原田 美佐 部長
Director, Misa Harada

ホームページ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kangobu/>

業務内容

「山口大学医学部附属病院 看護部」では、看護職員が一丸となり「あたたかい看護の探求と実践」を理念として、大学病院ならではの質の高い看護実践をめざしています。

本院看護部の特徴について、3点ご紹介します。

1. 新人看護職員への手厚い支援

新人看護職員を対象にした院内継続教育が充実しています。集合教育だけでなく、シミュレーター等を使った小グループでの技術演習、一人ひとりのニーズに沿ったスキルアップ研修の開催など、組織全体で新人看護職員の成長を支援しています。

また継続教育支援室を設置し、専従の看護職員が新人看護職員に対する精神的なサポートも行っており、安心して業務を遂行することができる環境を整えています。

2. 人材育成システムによる自律した看護職員の育成

看護部では「目標管理」「人事評価」「キャリアラダー」を3本柱とした、自律した人材育成のためのシステムを構築しています。これらを活用することで、看護職員の成長とやりがいを支援しています。

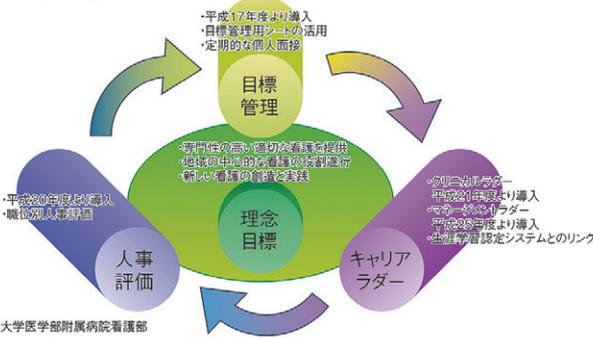
このシステムを効果的に機能させながら、看護職員が「5年後の自分に夢が持てる」組織づくりをめざしています。

3. 固定チームナーシング・ペアラウンド方式

本院の看護提供方式は、「固定チームナーシング・ペアラウンド方式」です。これは、固定チームナーシングを基盤とし、チームの中で看護職員2人がペアを組み、ペアでラウンドし、安全確認・直接ケアを一緒に行う看護提供方式です。

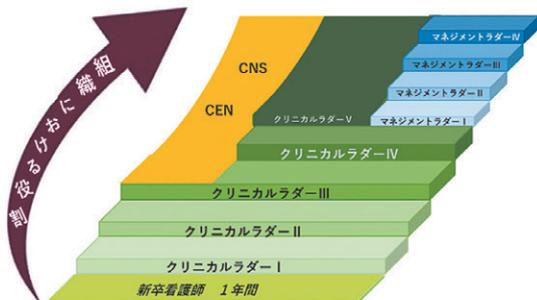
この看護提供方式のねらいは、①患者・職員の安全、②良好なコミュニケーションによるチーム活動の促進、③ペアを組んだお互いの看護職員の成長、④やりがいのある看護実践やチーム活動等を通じた自己実現の4つで、めざしているのは「看護の質を保証し、さらに向上させる」ことです。特に経験の浅い看護職員には「いつでも先輩がそばにいるので何でも聞ける、安心できる」と非常に好評です。

山口大学医学部附属病院看護部人材育成システムの概念図
Yamaguchi University Hospital Human Resource Development System for Nurse



2014.2 山口大学医学部附属病院看護部

山口大学医学部附属病院看護部キャリアラダー概念図





建物配置図

Building Layout

1 医学部本館

- 6F 会議室 (第1～3)
テレビ会議室
- 5F 薬理学講座
法医学講座
- 4F 病理形態学講座
分子病理学講座
- 3F 免疫学講座
ゲノム・機能分子解析学講座
- 2F 学部長室
病院長室
事務部長室
総務課
広報戦略センター
- 1F 経営企画課
管理運営課
医学教育学講座

2 基礎研究棟

- 6F 機械室
- 5F 公衆衛生学・予防医学講座
システムバイオインフォマティクス講座
- 4F 神経解剖学講座
器官解剖学講座
- 3F 分子細胞生理学講座
神経生理学講座
- 2F システムズ再生・病態医学講座
医化学講座
- 1F 情報基盤センター小串分室
臨床検査・腫瘍学講座

3 臨床研究棟

- 9F 高次脳機能病態学講座
歯科口腔外科学講座
- 8F 泌尿器科学講座
皮膚科学講座
- 7F 眼科学講座
耳鼻咽喉科学講座
- 6F 小児科学講座
産科婦人科学講座
- 5F 病態制御内科学講座
消化器内科学講座
- 4F 脳神経外科学講座
器官病態内科学講座
- 3F 麻酔・蘇生学講座
整形外科学講座
- 2F 消化器・腫瘍外科学講座
器官病態外科学講座
- 1F 放射線医学講座

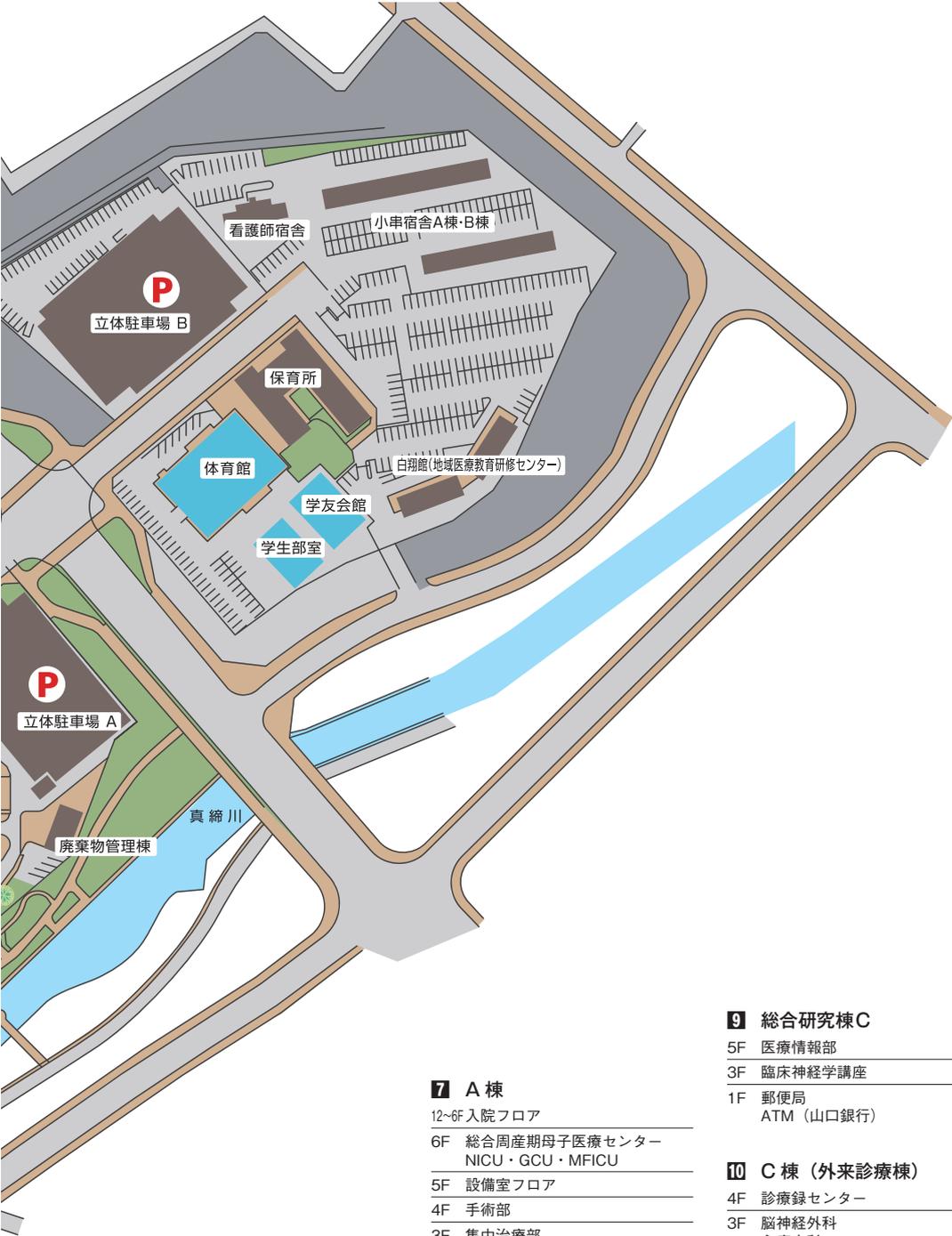
4 実習棟 A

- 4F 基礎実習室
- 3F 衛生・微生物学実習室
- 2F テュートリアル室
- 1F 学務課
医学部附属
医学教育センター

建物配置図 Building Layout

- 医学部施設
- 附属病院施設 A棟
- 附属病院施設 B棟
- 附属病院施設 C棟
- その他施設





5 医修館 (総合研究棟 A)

- 5F 大学研究推進機構
産学公連携・研究推進センター(小串URA)
学術研究部ライフサイエンス支援課
革新的コア医療技術実用化推進本部
会議室
セミナー室
教員室

4F SMAC

3F 実習室
実習準備室

2F 第2講義室

1F 第1講義室
多目的室

6 医明館 (総合研究棟 B)

8F 多目的室
医学系研究科附属再生医療教育研究センター

7F・6F 実験室

5F・4F 実習室

3~1F 講義室

7 A棟

12~6F 入院フロア

6F 総合周産期母子医療センター
NICU・GCU・MFICU

5F 設備室フロア

4F 手術部

3F 集中治療部
輸血部
病理診断科

2F 栄養治療部
薬剤部
医療材料物流センター

1F 病棟案内・救急外来
先進救急医療センター
コンビニ
オーディトリウム

8 B棟

10~4F 入院フロア

3F リハビリテーション部
歯科口腔外科

2F 外科
消化管内視鏡室
検査部
小児心エコー室

1F 核医学 (RI) 診療
カフェ
感染制御部
心臓カテーテル室

9 総合研究棟C

5F 医療情報部

3F 臨床神経学講座

1F 郵便局
ATM (山口銀行)

10 C棟 (外来診療棟)

4F 診療録センター

3F 脳神経外科
心療内科
精神科神経科
眼科
耳鼻咽喉科
腫瘍センター・化学療養室
高次統合感覚器医療センター
難病対策センター

2F 整形外科・リウマチ科
小児科
アレルギー科
泌尿器科

1F 総合外来
患者支援センター
医事課・医療支援課

11 C棟 (第1中央診療棟)

3F 医療人育成センター
(クリニカルスキルアップセンター)
光学医療診療部

2F 医療人育成センター
理美容室

1F 臨床研究センター
クリーニング

12 C棟 (第2中央診療棟)

3F 再生・細胞治療センター
ME 機器管理センター

2F 内科
脳神経内科
呼吸器・感染症内科
治験外来
漢方外来
一般内科
遺伝・がんゲノム診療外来

1F 放射線部
ME 機器管理センター

13 C棟 (新中央診療棟)

5F 呼吸器・感染症内科学講座

4F 放射線腫瘍学講座

3F 医療の質・安全管理部
看護部
輸血部 (自己血採血室)
血液浄化療法センター
肝疾患センター
産科婦人科
皮膚科・形成外科
生殖医療センター
生活機能向上センター

2F 心・血管エコー室
腹部エコー室
消化管内視鏡室
生理機能検査

1F 放射線科
麻酔科蘇生科

14 C棟 (放射線治療棟)

1F 放射線治療科

15 保健学科研究棟

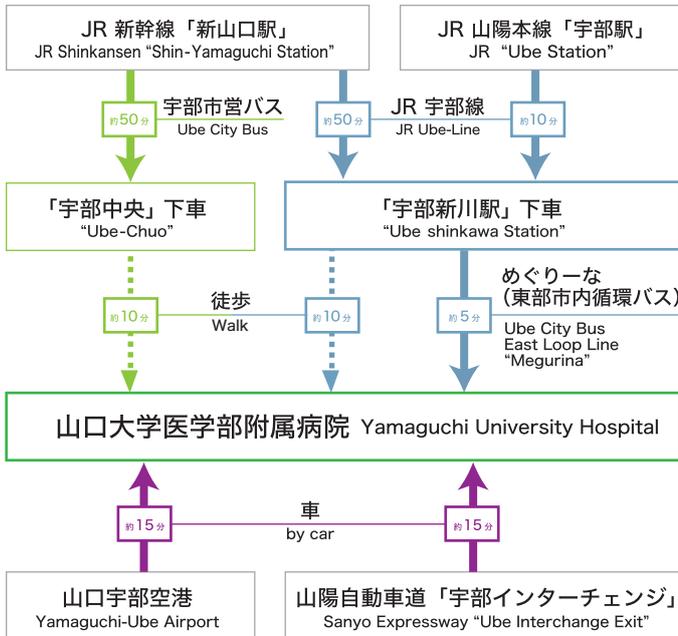
4~2F 看護学専攻研究室
検査技術科学専攻研究室

1F 会議室・事務室

16 保健学科第2研究棟

4~1F 講義室・オープンラボ

病院へのアクセス方法



山口大学医学部附属病院
 〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
 TEL (0836) 22-2111 / FAX (0836) 22-2113

